

くしろエコ・フェア 2025

～SDGsの視点から～

事業報告集

◆とき：2025年11月30日（日）/10:00～16:00

◆ところ：釧路市中央図書館

7階多目的室・展示室・グループ学習室



[主催] くしろエコ・フェア実行委員会

[共催] 釧路市教育委員会

くしろエコ・フェアHP

<https://kushiroecofair.org/>



目 次

実行委員長挨拶.....	1
くしろエコ・フェア 2025 チラシ (表)	2
くしろエコ・フェア 2025 チラシ (裏)	3
くしろエコ・フェア 2025 フィールドワークチラシ.....	4
参加団体報告	
NPO 法人トラストサルン釧路.....	5
釧路市役所環境保全課.....	7
釧路花くらぶ.....	9
湿原クラフト 辻野正.....	11
一般社団法人日本自動車連盟 (JAF)	13
釧路ガス株式会社.....	15
市民フォーラム946	17
海ねこみなと会.....	19
釧路野外教育研究会.....	21
冒険の杜プロジェクト.....	23
バスから釧路の街を考える会.....	25
くしろエコ・フェア クイズラリー.....	27
第7回エコポスターコンクール.....	30
来場者アンケート集計.....	42
新聞記事.....	48
協賛企業・団体広告	50
事務局業務の流れ.....	54
実行委員会規約.....	55
あとがき.....	56

「くしろエコ・フェア2025」

くしろエコ・フェア実行委員長 田丸典彦



今年も「くしろエコ・フェア2025」を、開催できましたことに、心から感謝申し上げます。

「くしろエコ・フェア」は、環境に関心のある市民団体を中心に、6月の国際環境月間の行事として2007年に発足し、コロナ禍の2019年まで毎年開催してまいりました。しかし、コロナの影響により、2020年から2年間中止を余儀なくされました。2022年の再開に際して、次世代を担う子ども達により多く参加してもらえるように、開催時期を国際環境月間の6月から離れ、子どもたちの取り組み易い夏休み以降としました。また、環境問題に多くの目標を掲げ、学校でも学んでいるSDGsに協賛することとし、今年は「SDGsの視点から」を副題としました。運営は参加団体の拠金を基本に、環境に理解ある企業等の協賛によって賄っております。ご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

今年は、11月30日に昨年と同様に釧路中央図書館の多目的ホールを主会場に、11団体が集いました。インフルエンザ流行の影響で、入場者数は昨年を大きく下回り、また、エコポスターの受賞者の半数近くが欠席する異例の年となりました。しかし、来場された方々は各ブースで出展者の説明を熱心に聞き、長時間滞在者が多いことから、会場は賑わいが絶えませんでした。図書館開催は今年で4回目となりますが、各ブースで来訪者と親密な対話できたのは、これまで開催してきた他の会場とは明らかに異なり、図書館来場者の特質ともいえるべきで、出展者にとって充実した展示となりました。

さて、2025年のエコ・フェアには、意欲的な取り組みが3点あります。1つ目は念願のホームページができたことです。これにより若い人たちを含めて多くの人達にエコ・フェアの取り組みを知ってもらい、同時に環境への認識を高めてもらうことができます。2つ目は、エコポスターにデジタル部門を設けました。より多くの子ども達にエコ・フェアに参加してもらえます。3つ目は、環境の取り組みに大切な、フィールドワークの再開です。10月19日に、事務局主催による環境ワークショップを開催し、釧路湿原野生生物保護センターバックヤードとトラストサルン釧路の保護地の見学のワークショップを行いました。

エコ・フェアは人と自然にやさしい持続可能な地域社会を目指して発足しました。私達の取り組みがその1助となることを願い、今年のご挨拶といたします。



大切な地球
未来の為に
今できることを…



くしろ エコ・フェア 2025

SDGs の 視点から

11月30日(日)

10:00~16:00

釧路市中央図書館

7F多目的ホール・展示室

入場無料

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは

貧困、紛争、気候変動、感染症。人類は、これまでになかったような数多くの課題に直面しています。このままでは、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなると心配されています。そんな危機感から、世界中のさまざまな立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、**2030年**までに達成すべき具体的な目標を立てました。それが「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」です。

持続可能とは、何かをし続けられる、ということです。

SDGsは、私たちみんなが、ひとつしかないこの地球で暮らし続けられる「持続可能な世界」を実現するために進むべき道を示した、つまり、ナビのようなものです (SDGsってなんだろう? SDGsクラブ 日本ユニセフ協会より)

ワークショップ、パネル展示、エコポスターコンクール
クイズラリー、その他・・・

LEARN & FUN

主催：くしろエコ・フェア実行委員会 共催：釧路市教育委員会

事務局：釧路市民活動センターわっと内(釧路市末広町3丁目1番地)

Tel : 0154-22-2232 Mail : kushiroecofair@gmail.com

<http://kushiroecofair.org/>



イベント内容 & 協賛企業・団体



エコポスター展

『「SDGs」～私たちにできること～』をテーマにしたポスターを釧路管内の小・中・高校生、一般の人たちに公募した作品を展示しています。今年から、PC等で制作した（AI形成作品は不可）デジタル部門を新たに設けました。

14:00より入賞作品の発表会を多目的ホールで行います。

クイズラリー

各ブースの掲示物・展示内容を元にした問題がパネルに掲示してあるので、答えを回答用紙に記入し受付に提出していただくと粗品をプレゼントいたします。

協賛企業・団体

拓北地下開発株式会社
ネイチャーテック釧路株式会社
沢田建設株式会社
環境コンサルタント株式会社
釧路信用金庫釧路支店
大地みらい信用金庫釧路支店
特定非営利活動法人くしろわっと
株式会社釧路厚生社
コープさっぽろ釧路地区本部
富士塗研興業有限会社
釧路工業高等専門学校
釧路地方中古自動車販売事業協同組合
株式会社釧路製作所
学校法人ほっかいどう学院くしろせんもんがっこう
学校法人緑ヶ岡学園釧路短期大学
株式会社田中組道東支店
国立大学法人北海道教育大学釧路校後援会
冒険の杜プロジェクト
釧路信用組合
岩倉建設株式会社
一般社団法人 日本自動車連盟（JAF）釧路支部
釧路ガス株式会社

釧路市環境保全課 （負担金）

パネル出展ブース

- **釧路市役所環境保全課**
2050年カーボンニュートラル達成をめざして、ゼロカーボンアクションやデコ活に関する展示
- **市民フォーラム946**
アイヌ民族とSDGsについて考える
「アイヌ文様の切り絵」ワークショップ
- **JAF(一般社団法人日本自動車連盟)**
①ECOカード発行・・・環境にやさしい約束を自身で選択し、エコ活動への意識向上を図る
②野生動物との衝突事故防止啓発パネル展示
- **釧路花くらぶ**
・釧路花くらぶの活動紹介～釧路で花のまちづくり～
・ドライフラワーでアップサイクルワークショップ
- **海ねこみなと会**
活動報告とワークショップ（シルクたわし、わたすげ）
- **釧路野外教育研究会**
釧路地域で身近に見られる役に立つ植物の紹介
現物と写真のパネル展示
ギョウジャニンニクの越冬芽、ヤブマメの地中果と地上果、オニユリのユリ根、テンナンショウの種と塊根、トリカブトの有毒塊根等
- **NPO法人トラストサルン釧路**
ナショナルトラスト活動で釧路の自然や生き物を守ろう
・イギリスで始まったナショナルトラスト活動について説明します
・35年前に釧路にある保護されない湿原や山、川が開発され環境が破壊され続けていたことから、自然と生き物を守るためのナショナルトラスト活動が始まりました
釧路湿原を守るNPO法人トラストサルン釧路が発足しました
・過去に行われた開発についてと、現在は自然に配慮しないメガソーラー発電開発もあり、自然や生き物を守るナショナルトラスト活動の重要性が高まっています
- **釧路ガス株式会社**
家庭用燃料電池「エネファーム」
従来ボイラーよりも高効率・省エネ・省CO₂で環境貢献が高い機器を紹介するパネル
『釧路ガスの昆布の森』の構想
昆布の大気中にあるCO₂を吸収する効果に注目した『ブルーカーボン』と言われる脱炭素に向けた取組の紹介
- **冒険の杜プロジェクト**
自然体験を提供するための、今後の計画(予定)についてを説明等
野外活動、自然体験を提供するための今後の計画(予定)についてを説明等
- **バスから釧路の街を考える会**
おでパスの利用拡大で高齢者の健康維持と街の活性化に節マイカーによるエコな環境づくり
- **湿原クラフト 辻野正**
体験教室「作ってみよう！湿原クラフト」
- **釧路市中央図書館**
環境に関連する本コーナー

本事業は公益財団法人北海道地域活動振興協会の令和7年度ボランティア活動支援事業助成を受けています。





～猛禽類/釧路湿原保護活動の現場の今を知る～

10/19 日 14:00-16:30

集合時間 13:45 集合場所 釧路湿原野生生物保護センター
(釧路市北斗2-2101)

釧路湿原野生生物保護センターバックヤードツアー
14:00～15:00

猛禽類医学研究所の獣医師/研究員が解説しながら、バックヤードを案内してくれます。収益は不足している治療費や餌代に充てられます。

トラストサルン釧路保護地観察会

15:10～16:30

野生生物保護センター付近にNPO法人トラストサルン釧路が保有する保護地を黒澤信道理事長に解説・案内してもらいます

参加お申し込みフォーム

- ・ 定員：15名（先着順）
- ・ 対象：小学生以上
（小学生は保護者同伴）
- ・ 参加費：大人 1500円
小～高校生 1000円

資料代、バックヤードツアー参加費、保険料込



主催 くしろエコ・フェア実行委員会

メール：kushiroecofair@gmail.com

協力 NPO法人トラストサルン釧路

くしろエコ・フェア
釧路湿原野生生物保護センター
&
トラストサルン釧路保護地観察会

くしろエコ・フェア

「釧路湿原を未来につなげるナショナルトラスト活動」

NPO 法人トラストサルン釧路
SDGs 14・15

釧路湿原は時代の移り変わりとともに様々な開発の危機にさらされています。戦後は、農地や住宅地へと開発され、リゾートバブルの最盛期には、湿原や周辺の丘陵地にはゴルフ場や工場の開発計画がありました。現在では、メガソーラー開発といった危機があります。

その中で、湿原を谷地と呼び、役に立たない土地とされていた時代からも、湿原を大切な土地として守ろうと立ち上がった人々がいました。絶滅したとされていたタンチョウの住む土地を天然記念物とし、さらに釧路湿原と名付け、国立公園として保全されることとなりました。

しかし、公的機関では釧路にある湿原の全体を保護することはできず、湿原の水源となる周辺丘陵地や国立公園の範囲とならなかった湿原は開発の波にさらされていました。トラストサルン釧路は、1988年に釧路湿原とその周辺に自然保護地を作ることを目的に発足しました。当時はリゾートバブルの最盛期で、周辺にはゴルフ場を始めたくさんの開発計画があり、ナショナルトラストの方法で市民から寄付を集めて保護するために土地を取得することにしました。

ナショナルトラスト活動は、市民の皆様から協力を得て、貴重であったり歴史的に意味のある土地や建物を保存します。土地に関しては可能な限り本来の生態系を保存する活動です。

現在までに土地取得資金へのご寄付は 3,700 件を超え、84 か所合計 680 ヘクタールの保護地を持つまでになりました。これらは寄付や土地の寄贈を行っていただけた方々によるご支援があつての成果です。また、道東地域に関わる公的機関の皆様が、トラストサルン釧路の土地取得に関わる協力体制があるということも大きな力となっています。

今後もどのような時代、どのような開発危機があつても、当会、行政、市民の皆様が一体となって釧路湿原を大切にしようという思いをつなげていくよう活動していきたいと思ひます。



今年度エコ・フェアに参加させていただき、63名の来訪者の方々とお話をすることができました。過去最高の人数で、現在のメガソーラー問題に対する、市民の皆さんの関心の高さをうかがうことができました。我々の説明を熱心に聴いていただく姿を感じることができ、説明にも力が入りました。



当会は、釧路湿原を大切に思う気持ちをつないでいくためにも、子どもたちと植樹を行う活動を行ってきました。新たに、子どもたちが釧路の動植物や環境について遊びながら学ぶことを始めています。今回はNPO法人子ども環境ネットワークにご協力をいただき、「生きもの神経衰弱ゲーム」を行いました。同じ絵柄ではなく、釧路に住む生き物と食べる物を合わせるゲームです。中には別のカードもあって、エコカードを引くと+1点、環境破壊カードは-1点となります。遊びながら、生き物の食べるもの、環境に良いこと、悪いことを学ぶことができます。



子ども環境ネットワークは、くしろ子ども未来塾で月一回ブースを作って釧路の環境について遊びながら学べるゲームを開催しています。京都に本部を置くNPO法人ですが、釧路の自然、子どもたちの学びを思う貴重な団体です。釧路の子どもたちのフィールドワークを行う計画もあるとのことでした。活動について、協力していただける方がいらっしゃいましたらサイトからご連絡いただけたらと思います。

当会は、会員を募集中です。年会費2000円となっています。QRコードから当会のサイトを訪れていただければと思います。

NPO 法人トラストサルン釧路 <http://trustsarun.life.coccan.jp/>



NPO 法人 子ども環境ネットワーク <https://www.ce-n.org/>



くしろエコ・フェア2025への参加報告

釧路市役所環境保全課

今年のエコ・フェアは、主に環境分野に関わるSDGs目標をテーマとしていたことから釧路市環境保全課では、13番「気候変動に具体的な対策を」に関わるパネル展示や体験コーナーの出展をしました。

●展示内容について



省資源につながる取組として、会場でもある釧路市中央図書館から廃棄予定の絵本カバーを提供いただき、エコバックにリメイクする体験ブースを設置しました。

また、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動「デコ活」を紹介するパネル2枚をブース内に展示しました。



そのほか、グループ学習室1では、「デコ活啓発パネル展」を実施しました。

地球温暖化の仕組みを紹介するパネルや、脱炭素社会を実現するための取組「デコ活アクション」について紹介するパネルを展示し、脱炭素社会の実現を目指す必要性や、そのための取組である「デコ活」を知っていただく機会を作ることができました。

●デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）について



環境省では、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた国民運動「デコ活」を展開しています。

釧路市では地域にデコ活を普及させ、脱炭素化をさらに進めるために、釧路町・釧路信用金庫と連携して令和5年12月25日付で一斉にデコ活宣言をしました。宣言後の取組として、三者共催で子育て世代向けのイベントや企業向けのセミナーを開催しました。また、令和5年11月に環境省主催で開催された「デコ活アクション大喜利大会」のアイデア部門において、釧路市×釧路町×釧路信用金庫で応募したデコ活一斉宣言やSNSでの周知活動などのアイデアが環境大臣賞に選ばれました。

今後も釧路地域の脱炭素化意識の向上を進めて参ります。

報告集をご覧ください。日々の暮らしの中でデコ活アクションに取り組み、脱炭素につなげていきましょう！



●環境に関する情報発信について

釧路市環境保全課・環境事業課では、Instagramを活用した環境に関する情報発信に取り組んでいます。このエコ・フェア参加報告の場を借りて、公式Instagramをご紹介します。



釧路市環境保全課・環境事業課

公式Instagram 【@ecocity946】

投稿数：620件

フォロワー：1188人（令和7年12月4日時点）

←シロクマとペンギンたちのアイコンが目印です！



@ECOCITY946

ご家庭で取り組める節電や省エネのことから身近なごみのことまで、環境に関する情報を幅広く発信しています。

気軽に情報に触れることができるので、ぜひ左の二次元コードからアカウントをのぞいてみてください！

くしろエコ・フェア 2025 への参加報告

釧路花くらぶ

12 つくる責任
つかう責任

SDGs 番号 12: つくる責任つかう責任



《はじめに》

「くしろエコ・フェア 2025」に、私たち釧路花くらぶは今年もブースを出展しました。本イベントは自然と人に優しい持続可能な地域社会とはどのようなものかを市民とともに考え、環境活動に触れ、参加するきっかけとなる場です。

今年は昨年以上にブースへの来場者が訪れ、釧路での花のまちづくりの取り組みや、アップサイクルをテーマにした私たちの活動に強い関心が寄せられました。本報告では、当日の活動内容と成果についてご紹介します。

《活動の内容》

1. アップサイクルリースづくりワークショップ

釧路花くらぶの実習花壇等で育てられた植物を中心に、自然素材を使ったリースづくり体験を行いました。「捨てない・活かす」をテーマに、廃素材や使い残した材料も工夫して再利用。幅広い年代の参加者が熱心に制作し、笑顔あふれる時間となりました。

参加者からは「自然素材の魅力を再発見できた」「アップサイクルの発想が新鮮！」といった声が多く寄せられ、環境への意識向上にもつながりました。



2. パネル展示

パネル展示では、釧路花くらぶの「花学」講座の活動や、市内の花のまちづくりサポート事業の取り組み、植栽ボランティア活動の様子を紹介しました。多くの来場者が興味深そうに足を止めていらっしゃいました。

特に、学校花壇の支援活動や、自主講座で実施したドライフラワー講座の写真展示が好評で、「こんな活動をしているとは知らなかった」「次回の講座に参加してみたい」といった声が聞かれました。



3. エコクイズラリー出題

クイズラリーでは、ブースのパネル展示やワークショップ内容と連動させ、「アップサイクル」をテーマにした問題を出題しました。

来場者が楽しみながら学べるよう、アップサイクルの意味や身近な例をイラスト付きで紹介し、「いらなくなったものを工夫して、新しいものに生まれ変わらせる」という考え方を理解してもらえる内容にしました。

生活に身近な事例を取り上げたことで、子どもから大人まで幅広い年代が興味を持ち、「これもアップサイクルになるんだ!」「家でもやってみたい」といった声が多く寄せられました。

また、クイズに回答した後にワークショップで実際に自然素材を使った制作体験を行うことで、「学ぶ → 実際に作る」という流れが生まれ、理解がより深まった様子でした。アップサイクルの概念だけでなく、物を大切に使う意識づけにもつながり、クイズとワークショップが相互に効果を高め合う結果となりました。

《今後の展望》

私たちは釧路で花のまちづくりを促進するとともに、釧路市の植花活動をアピールすることにより地域振興を図ることを目的としています。

「くしろエコ・フェア 2025」では、多くの来場者に環境配慮の価値や自然素材の魅力を共有でき、ワークショップでの満足度も高く、地域住民との交流が深まりました。

今年得た学びや反響をもとに、釧路での植物を通じた活動の輪をさらに広げていきたいと考えています。

エコ・フェア2025の報告書

(湿原のなかまたち)

湿原クラフト 辻野 正 SDGs 15

作品展示

野鳥の子育て アオサギ・カッコウ・メジロ・ノゴマ・ノビタキ・シジュウカラ・シマエナガ・カワセミ・タンチョウ

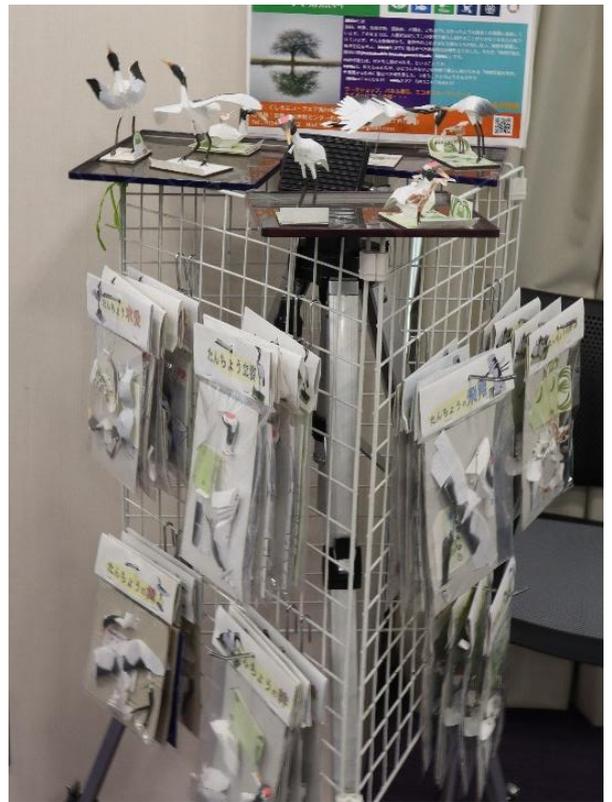
哺乳類の子育て ヒグマ・キタキツネ・エゾタヌキ・モモンガ・エゾリス
エゾシカ

情景 見返りキツネ・群れ（ウグイ）・ハーレム（シカ）・
ランデブー（マガモ）・引率（カルガモ）・昆虫群（カラ類・

コゲラ）

タンチョウの一年 春・家族・育み・晩夏・秋・舞・飛翔





それぞれ数年前のモデルであるが興味深く観覧されていました。

作成指導

たんちょうシリーズ、舞・飛翔・育み・絆・絆II・立姿・求愛

ワンキット ¥100 であるが、あまり反響が無かった。

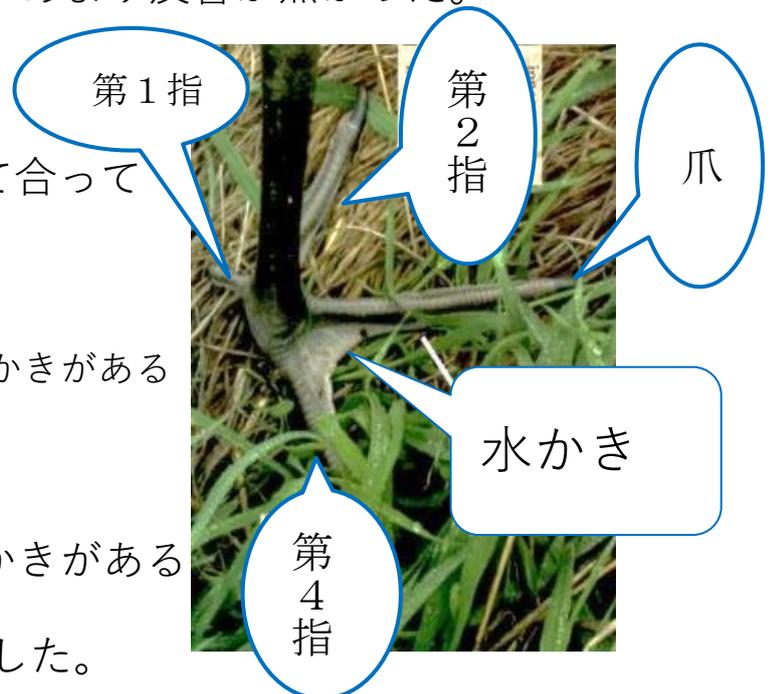
クイズラリー

たんちょうの足の指について合っているのはどれか？

① 指は3本 ② 爪がない ③ 水かきがある

正解③

たんちょうの指には一か所だけ水かきがある事を周知してもらいたく設問しました。



くしろエコ・フェア 2025 への参加報告

一般社団法人日本自動車連盟（JAF）釧路支部

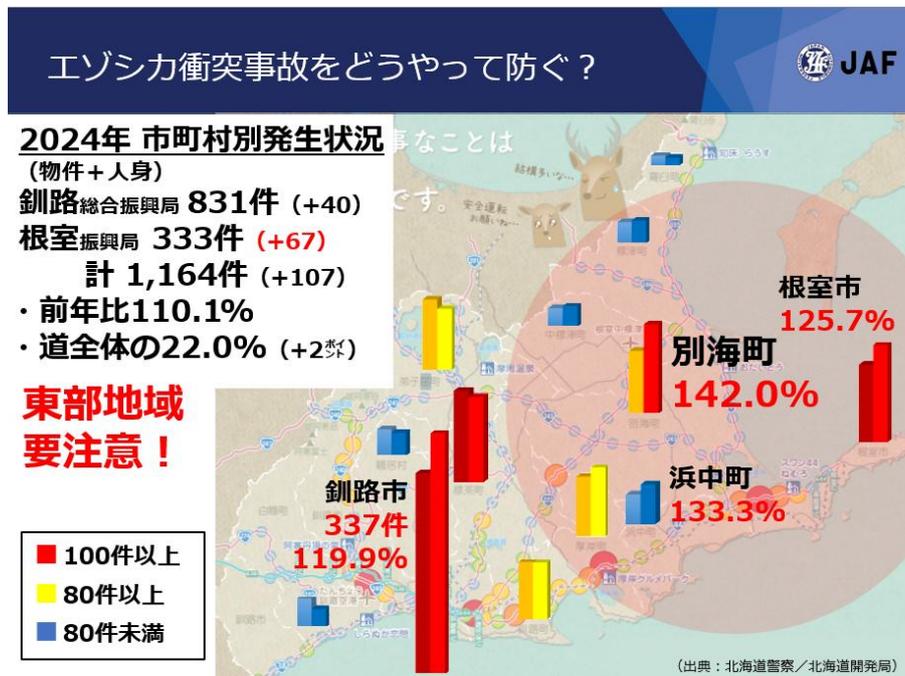
SDGs：13（気候変動に具体的な対策を）

JAF 釧路支部では、野生動物との衝突防止に取り組んでいます。

エゾシカによる交通事故発生件数は増加傾向が続いており、2024 年では 5,460 件（前年比 103.7%）となっています。

道東では、特に別海町などの東部地域が増加傾向にあります。（画像 1）

来場者の方も衝突事故件数や発生状況の掲示を見て、実態を知らなかったとの声を多くいただきました。



(画像 1) 2024 年エゾシカ衝突事故 市町村別発生状況 (道東)

また、エゾシカのほかに釧路エリアに生息する絶滅危惧種（タンチョウ、エゾフクロウ、オオワシ、オジロワシなど）との衝突事故が増加傾向のため、併せて事故防止策としてスピードダウン啓発を行っています。

今回は釧路市動物園様のご協力のもと、タンチョウの事故防止啓発動画をループ再生するとともに、タンチョウの事故に係るアンケートを実施しました。

アンケートにご協力いただいた方には、釧路市動物園特製マグネットシートをプレゼントしました。（画像 2）



(画像 2) タンチョウの事故防止啓発動画を放映している様子

出展内容としてはこのほか、「JAF エコ・カード」を実施しました。

これはパソコンを使ったシステムで、名前と生年月日、そしてエコ宣言をいくつかの選択肢から選ぶことで名刺大のカード (画像 3) を発行するものです。

エコ・カードは実施 3 年目となりますが、「ゲームは決められた時間内にします！」を選ぶ人がほぼいない傾向が鮮明になってきました (笑)



(左・画像 3) JAF エコ・カード (サンプル)

(画像 4) ブースの様子

今後も SDGs 達成に向けて努力してまいります。

くしろエコ・フェア 2025

釧路ガス株式会社営業部

SDGs 番号：未設定【環境問題側面の貢献で】

くしろエコ・フェア 2025 に参加させて頂きました。

釧路ガスでは 2022 年から取り組んでいる『釧路ガス昆布の森』構想の紹介と高効率給湯器『エコジョーズ』・ガスマイホーム発電『コレモ』・家庭用燃料電池『エネファーム』についての展示パネルを用意しました。

いずれの器具も省エネ・省 CO₂ において環境貢献が高い商品となっており、脱炭素社会実現に向けて貢献できるものとなっております。

『釧路ガス昆布の森』構想は昆布が大気中の CO₂ を吸収する効果が高いことを説明して、『ブルーカーボン』と言われる脱炭素に向けた取り組みを紹介しました。さらに活動を通じての環境授業を地域の学校に実施したことを紹介しました。

環境価値に焦点を当てて話をすることは非常に貴重な機会であります。この機会に商品の周知や環境貢献への取り組みについて知っていただければと思います。さらに環境に対して個人が何をできるのかを考える一助となれば幸いです。



【エネファームとは?】

この場をお借りしてエネファームについて簡単に説明したいと思います。

発電

都市ガスから取り出した水素と空気中の酸素を化学反応させることで発電

給湯

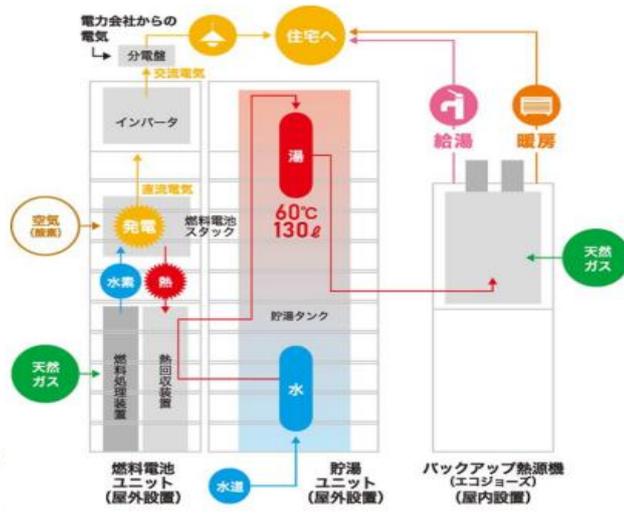
発電時の排熱を給湯に活用。貯湯タンクのお湯が足りない場合はバックアップ熱源機（エコジョーズ）で加熱

暖房

バックアップ熱源機（エコジョーズ）で暖房

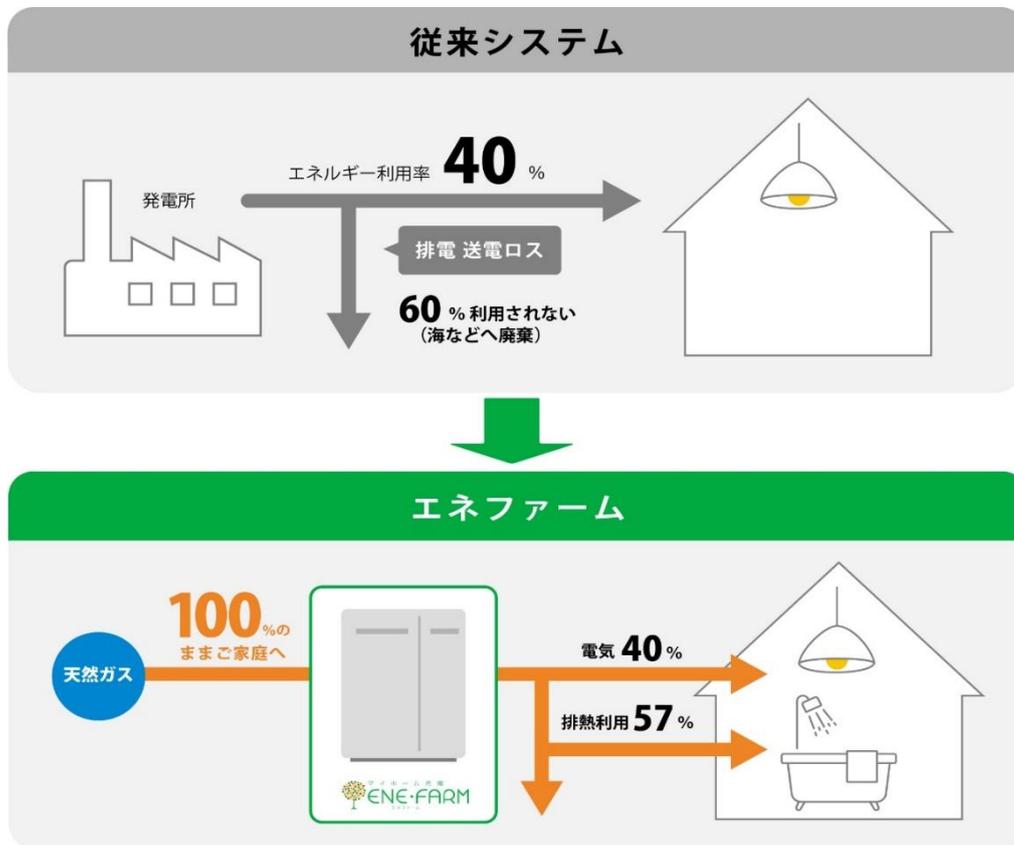
レジリエンス性

- ・ 停電時には、最大約500Wの電力を最長8日間（192時間）使用可能（※1）
- ・ 断水時には、貯湯タンク内の水を最大約130L使用可能（※2）



※1：ガスと水道が供給されている場合。
 ※2：飲用・調理目的以外の生活用水(水洗トイレ等)としてご利用いただけます。

簡単に言うと、天然ガスから取り出した水素と空気中の酸素を化学反応させて発電し、発電時の排熱を給湯に利用するシステムです。



従来システムと比べてもエネルギーの無駄がありません。

市民フォーラム 946 は、昨年に引き続き、「アイヌ民族についてSDGsの視点からの考察」を展示させていただきました。加えて、アイヌ民族の衣服や、日用品の刃物や儀式に使う刀、装身具などにも施されている「アイヌ文様」の「切り絵」コーナーを設けて、参加者に作っていただきました。

北海道においてさえ、アイヌ民族に対する理解度は、まだまだ十分であるとは言えないのが現状ですが、こうした状況を着実に改善していければ幸いです。

●まず、エコエコフェア 2025 当日に展示したもののの中から「抜粋」して紹介します。



アイヌ史教育の必要性

■日本政府が内国的植民地政策に乗り出したのが、1869年からの北海道「開拓」でした。明治期の歴史は、まさにアイヌ民族から文化を奪い、生業を奪い、土地・資源・領域を奪っていく歴史でした。

■こうした歴史認識をもつことで、アイヌ民族への理解が深まり、依然として後を絶たないアイヌ民族への差別を根絶することにつながっていきます。そして、アイヌ文化の復興のみに重点を置いたわが国の先住民族政策の課題に気づくことができます。アイヌ民族を主人公にしたアイヌ史教育が重要であり、昨今のアイヌ文化を中心とした教育からの脱却を図っていく必要があります。



アイヌにとって、

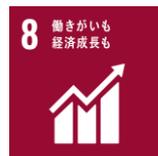
「水」はカムイ(神)

■アイヌ民族にとって、「水」はワッカウシ・カムイと呼ばれる神(カムイ)です。その水が流れる川は丸木舟(チブ)で移動するための「道」でもありました。また、夏にはマス、秋にはサケが川をさかのぼってくるので、「カムイ・チェブ」(神が降りてくれた魚)としていただき、厳しい冬を乗り切るための保存食にもしてきました。・・・また、現代でも水道水の多くは川から取られるなど、わたしたちの暮らしを大きく支えています。

■祖先が伝えてきた伝承を「アイヌ神謡集」としてまとめた知里幸恵さんは、「悪魔の子が川にクル

ミの毒気を流したためにサケが引き返してしまい、それを見た神さまの子が、悪魔の子を退治し、清流を取り戻した」(小オキキリカムイが自ら歌った謡「この砂 赤い 赤い」という神謡を取り上げています。「川を汚してはいけない」という教訓がそこには込められています。

■ところが、明治政府は、「アイヌ民族はサケを捕ってはならない」と命じました。それまでサケの恵みによって生活を支えられていたアイヌ民族は、サケを獲ることを禁止されると、次第に集落(コタン)での暮らしが成り立たなくなり、困窮を極め、中には餓死してしまう事例もありました。



民族的アイデンティティ を大切にした職業の確立

■民族的アイデンティティと職業は、互いに影響しあっています。それまで活発な民族活動をしていた人も、民族と関わりを持たない職業に就いたために、民族活動から遠ざかってしまう人が少なくありません。

■アイヌの若者たちが民族に関わる仕事をしたいと思った時、彼らを支えるシステムが必要です。民族に関わる事を仕事に従事できる機会や職場を整備することが必要不可欠で、その職業で生計がたえられる環境づくりが急がれます。



差別的なアイヌ政策 からの脱却

■近代のアイヌ政策としてよく知られるのが、

1899年(明治32年)に制定された「北海道旧土人保護法」です。アイヌ民族に1戸あたり最大1万5千坪(約5ha)の土地を与えて農耕を強いる政策でした。しかし、給付された土地の多くは農耕に適さない土地であったため、経済的な是正効果は全く不十分で、アイヌ民族の経済的な困難はその後も続きました。

■2019年に施行された「アイヌ施策推進法」では、「アイヌ民族を差別したり、権利利益を侵害する行為をしてはならない」としていますが、罰則規定がなく、ネット、SNS等で後を絶たないアイヌ民族への誹謗中傷などのヘイトスピーチ等に対する措置は脆弱で、より実効性のある施策が急務となっています。

■2007年、国連は先住民族の権利を保障する「先住民族の権利に関する国連宣言」を採択しました。この宣言は、先住民族に対し、自分たちのことを自分たちで決めるという自己決定権に基づく民族独自の政治、経済、社会、文化的な発展を認めています。日本政府による現在のアイヌ政策はこうした権利はほとんど認められていません。

続いて、「アイヌ文様」の展示、「切り絵」コーナーの様子について紹介します。

■「アイヌ文様」の展示では、アイヌ文様の用途(民族衣服だけでなく、日用品の刃物や儀式に使う刀、装身具などにも施されてきた)、文様の意味(「魔(もの)除け」の意味がある)などについてふれ、さらに、近年急速に軍備拡張を続けている自衛隊が、練習機の尾翼に「アイヌ文様風」のマークを使用し、アイヌ民族の中には、アイヌ文様が戦争利用されるのではないかという危機感をもつ方々も少なくない、いわゆる「アイヌ文様の自衛隊機への使用問題」について展示しました。

■最後に、アイヌ文様の「切り絵」コーナーでは、4歳のお子さんから年配の方々まで参加いただきました。文様を切り抜き、拵げた時の「喜びの表情」が印象的でした。(数名の感想を紹介します。)

- *「かっいいもようができて たのしかったです！」
- *「簡単にできて、かわいくできて 楽しかった!!」
- *「作ってみて、改めてアイヌ文化を知ることができました。」
- *「初めてアイヌの文様の切り絵を体験しましたが、いろんなもようがあり、楽しませてもらいました。」
- *「簡単に楽しくアイヌ文様の切り絵を体験させていただきました。ありがとうございました。」
- *「アイヌ文様の切り絵 好きで、時々参加してます。また参加したいです。」
- *「アイヌ文様の切り絵、親切・ていねいに教えてくださるので、手の不器用なわたしにもできました。ありがとうございました。」
- *「初めての体験でした。ご指導ありがとうございました。部屋に飾って楽しみたいと思います。」

・アイヌ文様の「切り絵」に取り組む参加者



(文責 市民フォーラム946 長根)



世界標準の

先住民族政策へ

■世界に目を向けると、これまでに、ノルウェー、スウェーデン、ニュージーランド、オーストラリア、カナダ、台湾などの国や地域が先住民族に対して謝罪しています。日本は長い間、アイヌ民族を先住民族として認めませんでした。2008年6月6日、「アイヌ民族を先住民族として認めることを求める国会決議」が国会で採択され、それを踏まえて、政府がようやくアイヌ民族を日本の先住民族として認めました。しかし、政府による謝罪は未だに行われていません。・・・国家として正式に謝罪をし、世界標準の先住民族政策へと歩みを進めていくことが大切です。

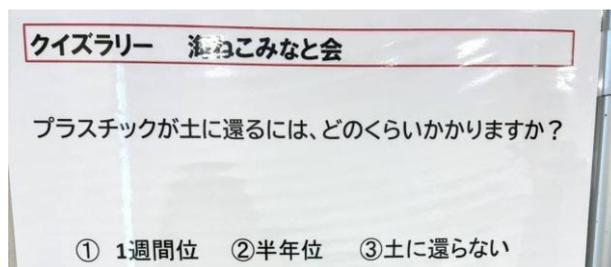
【追記】施行から6年が経過した「アイヌ施策推進法」の見直しについて、政府は「法改正しない」方針を示しました。「世界標準」から逆行する日本政府の対応に疑念を持たざるを得ません。

ごみ〉になります。他にも、よくあるクッキーの缶の容器ですが、こちらは空き缶のごみとして回収しています。

同じ『缶』ですが、この様に、迷ってしまう事が他にもあると思います。

そして、毎年恒例のクイズラリーです！

海ねこみなと会は、こちらのクイズを出しました。



又、今年も、プラスチック問題を皆さんにも知っていただいて、無理なく、身近なところから変えていこう！！…という事で、シルクたわし編みのワークショップを開催し、たくさんの方に、楽しみながら、環境のお話をしながら、編んでいただきました。

それにプラ、羊農家さんから頂いた羊毛を洗い、フェルトにして、釧路湿原や霧多布湿原で見られている《ワタスゲ》を作るワークショップも同時に開催しました。こちらも、小学生から大人まで、楽しんでいただけました。

楽しみながら、今できる環境問題についての話ができる、良い機会になりました。



海ねこフレンズ（気軽に取り組める情報を受け取る無料会員）募集中です。

QRコードから登録をお願いします。



アイヌ民族の生活・文化にとって大切な3種の野生植物

オオウバユリ（トウレブ）、ギョウジャニンニク（プクサ、キトビロ）、
ヤブマメ（アハ、エハ）

野外教育研究会は、これまで釧路で身近に見られる、アイヌ民族を支えてきた「イオル」の幾つかの植物を紹介してきました。今年は、そのうち、とりわけ大切にしてきたオオウバユリとギョウジャニンニクについて伝統的利用法をより詳しく紹介しました。また、現在では、庭の雑草として嫌われるヤブマメもアイヌの人達にとっては貴重な食材でしたので、オオウバユリとギョウジャニンニクの越冬芽、ヤブマメの地中果について現物を展示して見てもらいました。

オオウバユリとギョウジャニンニクについてアイヌの人達に伝えられているお話を、知里真志保著作集 分類アイヌ語辞典 植物編・動物から紹介し紹介しました。

「太古、国作りの神が人間に食べさせようと木の実、草の葉、草の根などを用意したのに、人間はその大部分を食糧であると知らない。中でもギョウジャニンニクとオオウバユリは食糧の中心であったのに採る人もいないまま、毎年空しく散ってゆく。そこで、オオウバユリとギョウジャニンニクの頭領が人間に化けて、妻と仲良く暮らしている立派な酋長を訪れ、採取と調理方法を教え、村々に伝えるように言った。以後、オオウバユリとギョウジャニンニクは食べてもらうことにより神となり、ギョウジャニンニクを食糧の守護神として祭るなら、如何なる病魔に罹ることもなく子々孫々繁栄することを告げられた。」

自然の動植物は人間が利用して、感謝することによって神の国に行けるといふ、アイヌ民族の自然に対する考えが示されています。



オオウバユリ（トウレブ） ユリ科ウバユリ属の多年生植物で開花まで10年近くかかる。アイヌ民族にとってオオウバユリとギョウジャニンニクは特に大切な食物です。球根を食用としました。掘る時期は6-7月上旬です。花のついている株は取らず、花の無い株を掘りました。鱗片を1枚ずつはがして、器に入れてつぶし、水を張って澱粉を沈殿さ

せました。オオウバユリの鱗片はもちろんそのままでも食べられます。やや口に繊維が残りますが、ゆでたり炒めたりするよりも直接焼いた方が食べやすく、美味しく頂けます。なお、開拓1世の人たちは秋に採取して煮たり焼いたりして食べたそうです。



ギョウジャニンニク (プクサ、キトビロ) ヒガンバナ科、ネギ属の多年生植物で、生育が遅い植物です。アイヌの人々は、早春の緑色野菜として食したばかりでなく、乾燥保存して年間を通して利用しました。

ギョウジャニンニクについては、今年は採取して乾燥させたものを標本として展示しましたが、希望者には食味もしてもらいました。ところで、スーパーで乾燥野菜が食材として販売されていますが、ギョウジャニンニクを味わったことのある人は少なく、皆さん初体験でした

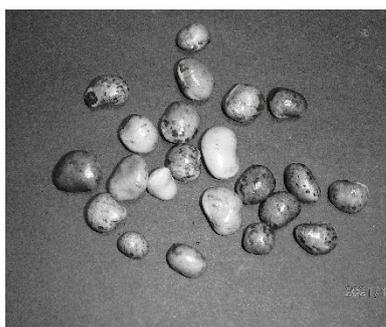


が、食味、風味ともにとっても美味しいと驚かれています。ギョウジャニンニクは生育が極めて緩慢な植物で、開花まで早くても4年かかります。そして春先の採取は深くすれば回復不可能な欠株となります。アイヌの人達が大量に利用したのは、5月末～6月のつぼみが大きくなった頃で、根元から刈り取り乾燥しました。この時期だとダメージが少なく、欠株になることはありません。

ギョウジャニンニクの強烈な匂いは硫黄を含んだ化合物で、強壮、疲労回復、抗菌等様々な薬効が認められています。風邪、結核、産後の洗浄、傷の手当等、アイヌの人達にとっては万能薬草だけでなく、魔除けとして疫病が蔓延した時入り口に吊るし、病魔の侵入を阻止する心の支えにもなりました。

ヤブマメ (アハ、エハ) マメ科ツル性1年生植物

ヤブマメはアイヌの人達にとって重要な食糧で、果実は地上と地下にでき、地中果の方が大きいです。アイヌ語のアハ、エハと呼ぶが、意味は「地下に結実



した果実」です。採取は秋または春で、皮をはぎ、他の豆と異なり、水にうるかすことはしないで、アワやイナキビなどの穀類と一緒に炊いて食べました。また、採ってきたらすぐ煮て食用油があれば油を付け、ご飯に入れて栗ご飯のようにしても食べました。なお、庭に侵入すると駆除するのに極めて厄介な雑草です。

冒険の杜プロジェクト

今年は、全国各地でいまだに熊の被害が多発しております。危険が伴うため、安全に自然体験事業を行うためには、市街地を歩くフットパスが良いのではないかと考え、フットパスコース(案)を考え図面にしました。
厚岸町市街を選択し、期日は2026年中に行います。

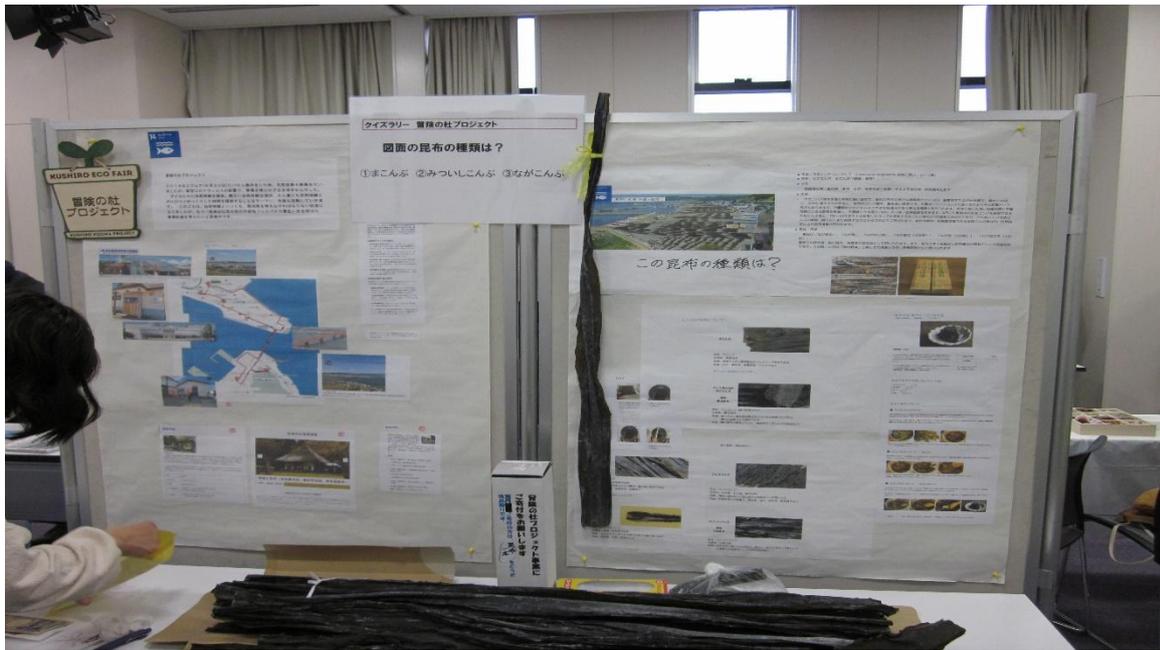


①厚岸町開示記念館(歴史を学ぶ)→②さくみ寿司(牡蠣の味噌汁)→③本の森厚岸情報館(図書館見学)→④味覚ターミナルコンキリエ(景色・施設見学)→⑤お供え山(展望台)→⑥るみ〇(食堂)→①戻るか……⑦国泰寺(蝦夷三官寺)・厚岸神社→①

市街地フットパスの魅力

- ・ **地域資源の再発見**：観光マップには載っていないような、地域に昔からある小道、公園、歴史的建造物などを巡ることで、その土地固有の魅力を発見できます。
- ・ **住民との交流**：コース沿いの住民との触れ合いや、地元の特産品を販売する小さな商店への立ち寄りなど、地域との交流が生まれる機会を提供します。

市街地のフットパスは、地域独自の文化や歴史を感じながらゆっくり「歩く」楽しさを再認識させてくれる取組です。



今年、「SDGS番号14の海の豊かさを守ろう」をテーマに、厚岸町産昆布の実物を展示しました。クイズ：この昆布の種類は？ 答え なが昆布です。

和名：ナガコンブ 主産：地釧路・根室管内沿岸 特徴：文字通り世界の昆布属中最も長い昆布である 用途：おでん用、早煮昆布、佃煮など

普段料理する方々は、料理方法をよくご存じで、なるほどとこちらが感心しました。特に、若い世代の少年少女がこの昆布の実物を見て、海の環境についても考えてもらいたいと思います。



2025年もそれぞれのブースに個性が有り、参考になり勉強にもなりました、皆さんありがとうございました。

おでかけパスポート70の利用で街の活性化を。

バスから釧路の街を考える会 SDGs番号11

「くしろエコフェア」への参加は、今年で3度目です。展示物は、“おでかけパスポート（略称：おでパス）1年間の実績と効果”“北海道初のバス運行について”“バスの会活動紹介”の三つでした。

1、おでパスの実績ですが前年度とは大きく変わらず令和7年3月までの1年間で釧路市内月平均60,583回利用されており、1日平均1,000人前後の高齢者（70歳以上）が、「おでパス」を持って路線バスに乗り外出をしています。結果として、令和6年度の高齢者（70歳以上）の「おでパス利用」による運賃支払いが年間7千270万円になっています。

また、「おでパス」の新規・更新数も令和6年度で10,573件（微増）になっており、1件500円の負担金（新規・更新料）を乗すると528万6500円が、おでパス利用者から郵便局に支払われています。

現在、釧路市の70歳以上の人数は約44,566人で、釧路市は、おでパスの年間取得目標を半数の2万件にしています。

【目指そう！高齢者だけで年間運賃収入1億円超え。そのために、一か月の「おでパス」利用回数を8万5千回に。「おでパス」の新規・更新を1万5千件に。】

2、北海道でのバス運行の起源と言えば大げさですが、今回のエコフェアのクイズラリーの依頼から思いつきました。

北海道バス協会によると、記録に残るものとして、北海道で初めてバスが走ったのは、根室から厚岸までだそうです。根室・厚岸方面は、古くから漁場として栄え、酒場などが立ち並んでいました。そこに目をつけたのが、根室で馬車運輸業を営んでいた大津滝三郎という人で、東京のセールフレーター社から中古のフォード社製・幌型8人乗り自動車を2両購入（当時1両3,500円）して、大正3年（1914年）6月に根室から厚岸に向けて、北海道で初めてのバスが走りました。乗客は、4～5人あったということで、毎日定期的に運行されていました。

しかし、この初めてのバスは、悪路のため燃料・タイヤの消耗が激しく、車体の故障も続出して採算がとれず、わずか1年半で廃止されてしまいました。

3、“バスから釧路の街を考える会”2025年活動紹介

① 4月20日（日）路線バスで“博物館に行こう（11名参加）

博物館の催しの【釧路をより知ってもらうために、博物館学芸員が話す『博物館展示解説

“ようこそ釧路へ”』の催しです。転居してきた人に限らず、釧路の自然と歴史を知りたい人は誰でもOK】を取り組みました。利用した路線バスは、行き・帰りとも、100番イオン線(博物館が終点・始発です)。12番公住線、16、17番、白樺線、55番南北線を利用する人は市立病院から乗降車でした。

② 5月13日(水) 路線バスに乗って柳町公園の桜・花見交流(27名参加)

③ 6月26日(木) “バスに乗ろーデー・恋問館” 4月にリニューアルオープンしたばかりも白糠町・道の駅で、申込者が多く急遽2グループに分けての出発でした。バスは、白糠線36番、行きが釧路駅前発 10時:30分と 11時 30分、帰りは恋問館発 13時 14分と 14時 44分。天候にも恵まれ、施設を見学しながらお食事にお買い物、サウナも利用される方もいらっしゃいました。〈写真〉

④ 7月24日(水) 何度か開催している緑ヶ岡公園でのパークゴルフとバーベキュー交流に17名が参加しました。路線バスは12番の文苑公住線と3番の武佐線を利用しました。

⑤ 8月21日(木) 14時から17時までの3時間、行きも帰りも路線バスに乗っての「カラオケ交流」です。会場は、武佐の“スナックJ”さんを貸し切って、12名の参加でした。利用した路線バスは55番の南北線です。

⑥ 9月26日(金) 毎年、全国バスの日(9/20)に取り組んできている敬老ツアーです。今年は、1番のたくぼく線を利用して3月に有形文化財に登録された「本行寺の啄木館」と太平洋を一望で来る「高齢者生きがい交流プラザよねまち」(見学、お食事、入浴)に13名が行きました。

⑦ 10月17日(金) “終活への準備・老人ホームに訪問研修 “初めての企画でした。ご協力いただいたのは武佐にある「社会福祉法人：釧路愛育協会養護者ホーム長生園」と併設されている「特別養護老人ホーム武佐の里」です。

『入所の条件は？入所の手続きは？入所の料金は？養護と特別養護の違いは？』等々、介護福祉士の方が説明して下さるといふこともあって、申し込み者が殺到し15名の予定が27名の参加となり何名かお断りすることになりました。研修の後、二組に分かれ担当者の案内で施設内見学を行い、3時間の行程を終えました。

〈写真〉





くしろエコ・フェア クイズラリー



くしろエコ・フェア 2025 では、昨年度に続き来場者参加型の企画「クイズラリー」を実施しました。今年度はすべての出展団体さんがクイズラリーにブース参加し、多くの来場者が展示ブースをまわりました。

出題内容は各出展団体さんの掲示物・展示内容からクイズを出していただき、参加していただくと粗品をプレゼントという形で行いました。



クイズラリー問題一覧（★答えは一番最後にあります！）

◆湿原クラフト 辻野正

Q1. タンチョウの足の指について次のうち合っているものはどれか

- ① 指は3本 ② 爪がある ③ 水かきがある

◆釧路市環境保全課

Q2. デコ活アクションで正しいのはどれでしょうか？

- ① 食べ物を残す ② 宅配便を一度で受け取る ③ 誰もいない部屋でも電気をつける

◆釧路野外教育研究会

Q3. アイヌ民族がギョウジャニンニクを乾燥利用するため大量に刈り取った時期はいつごろですか

- ① 4月初め ② 5月花芽が見え始めた頃
③ 6月 つぼみが大きくなり上をむいたころ

◆冒険の杜プロジェクト

Q4. 右の写真の昆布の種類は？

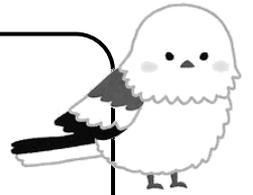
- ① まこんぶ ② みついしこんぶ ③ ながこんぶ



◆市民フォーラム 946

Q5. アイヌ民族の民族衣装などにある「アイヌ文様」はどんな意味をもっているか

- ①「デザインとしての意味」 ②「植物を大切にす意味」 ③「魔もの除けの意味」



◆海ねこみなと会

Q6. プラスチックが土に還るには、どのくらいかかりますか？

- ① 1週間位 ②半年位 ③土に還らない



◆釧路ガス株式会社営業部

Q7. 昆布のような海藻が、光合成によって二酸化炭素を吸収・貯留した炭素のことを色の名前をつかった名前と言います。次の三つの内どれになるでしょうか。

- ① レッドカーボン ②グリーンカーボン ③ ブルーカーボン

◆バスから釧路の街を考える会

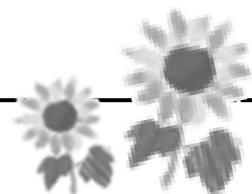
Q8. 北海道で初めてバスが走ったのは根室からどこの間でしょう。

- ① 浜中 ②厚岸 ③釧路

◆J A F (一般社団法人日本自動車連盟)

Q9. エゾシカとの衝突事故が最も多い時間帯はいつか

- ① 4～6時 ② 12～14時 ③ 18～20時



◆NPO法人トラストサルン釧路

Q10. ナショナルトラスト活動とはなんだろう？

- ① 市民の意思で土地を購入し保護する ②保護した土地は、一般市民は立ち入ってはならない
③土地を保護する必要がなくなったときはほしい人に売る

◆釧路花くらぶ

Q11.いらなくなったものを工夫して、新しいものに生まれ変わらせる事を何というでしょう？

- ① リサイクル ②アップサイクル ③リユース

「クイズラリーを終えて」

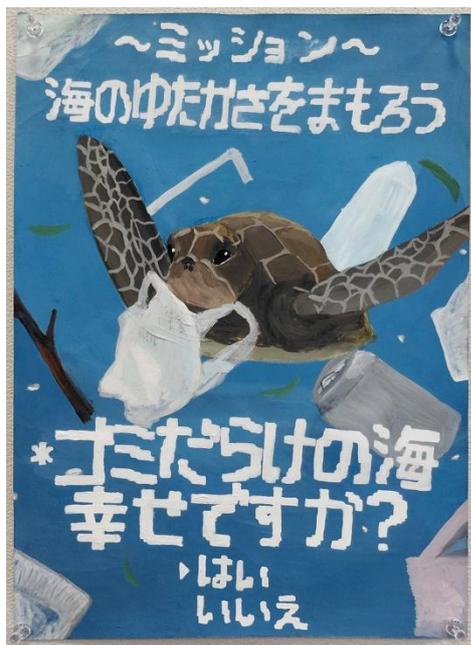
今回で4回目となる釧路市中央図書館でのくしろエコ・フェア イベント開催中にクイズラリーを実施しました。
今回はすべてのブースがクイズラリーへ参加してくださり
ブースへの来客につながり時間をかけて楽しまれていた参加者が多かった様に思われます。
来年度も実施する際は、ぜひご協力よろしくお願いたします。
改めて問題と解答を載せますので今一度取り組んでみてくださいね。



★クイズラリーの
解答はこちら→
※逆さまにご覧下さい

- 01～ ③水かきがある
02～ ②宅配便を一度で受け取る
03～ ③6月 つばみが大きくなり上を向いた頃
04～ ③ながごんび / 05～ ③魔物の除けの意味
06～ ③土に還らない / 07～ ③ブルーカーボン
08～ ②豊岸
09～ ③18～20 時 / 010～ ①市民の意思で土地を購入し保護する
011～ ②アップサイクル

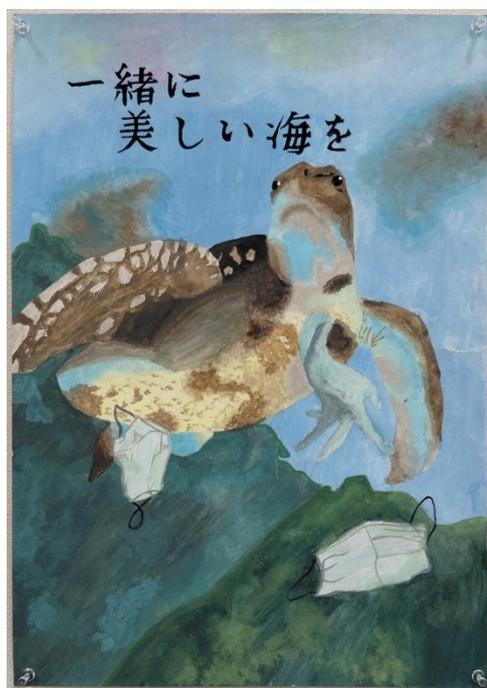
手描き部門 銅賞



ゴミだらけの海
佐野結菜



すべての人に健康と福祉を
堀部咲良



一緒に美しい海を
村上友菜

手描き部門 全作品



正しい分別出来ますか?
相庭汐里



守ろうよ 私たちと地球の未来
朝倉なお



うみにごみをすてないでね
石原建一朗



たすけあおう!
岡田更喜



私は”普通”じゃない
貝森那々佳



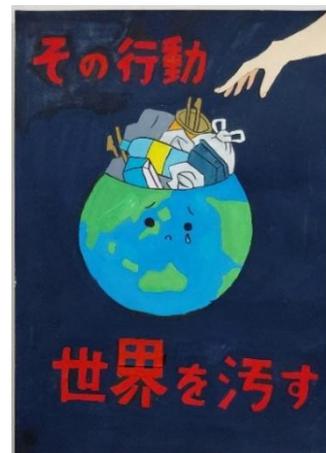
海の生きものを守ろう
柿沼朱里



魚のようなペットボトル
角奈々実



君次第
川本柚音



素敵な町づくりのために
小林由奈



緑をまもってあげよう
柴田羽宙



仲良きたべよう
柴田千星



今も落ちたまま
東海林咲良



みんなの海を守ろう
高井奈歩



釧路の水を大切に
高原楓菜



さかなごみたべちゃうよ
高橋一二三



海からのSOS
高橋七海



もりにあるごみをひろおう！
みんなでもりをまもろう！
立山せいり



海の中
天童花凜



水産資源を大切に
中村玲奈



もりにごみをすてないで
成田莉恋



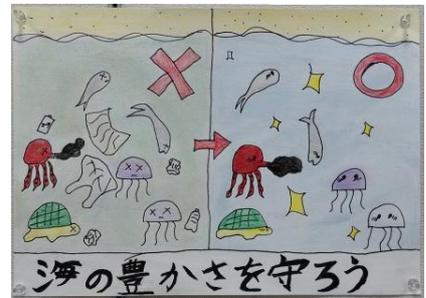
こまっているひとをたすけよう！
原嶋笑大



海の豊かさを取りもどそう
三浦爽



地球温暖化
水島明葉



海の豊かさを守ろう
山原珠妃



「もくひょう7のむじゅん」
渡部穂乃花

デジタル部門 金賞

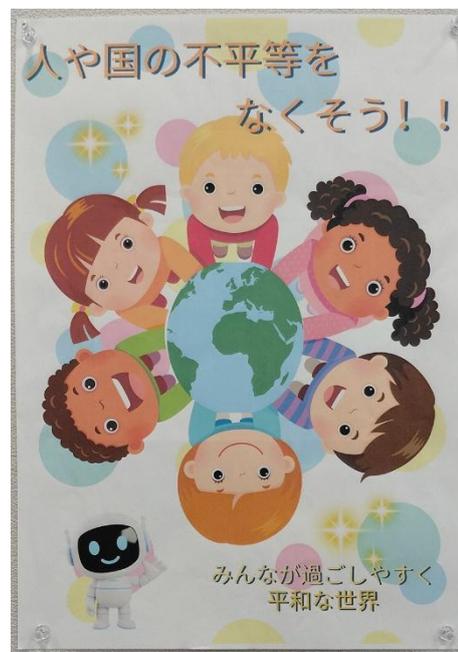


平等
西唯

デジタル部門 銀賞

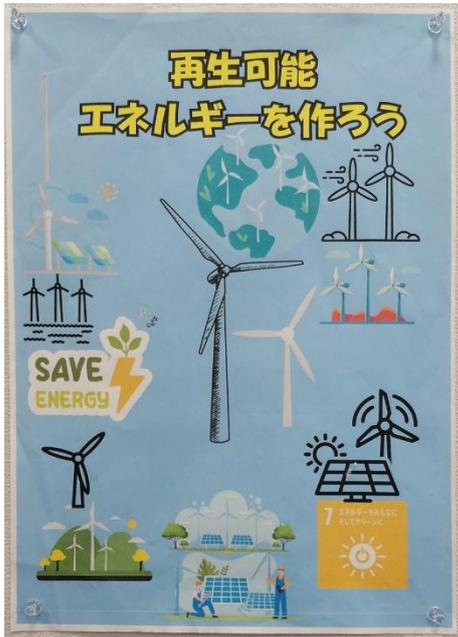


釧路湿原を大切に
上村遥音

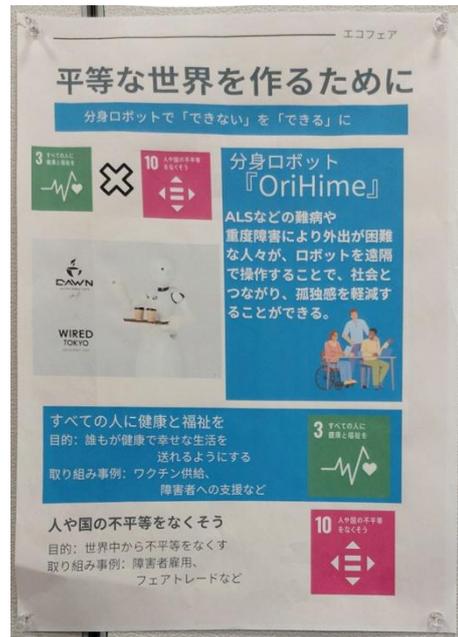


不平等をなくそう
登小梅

デジタル部門 銅賞



再生可能エネルギーを作ろう
菊池風汰



「できない」を「できる」に
藤盛琥珀



海の豊かさを守ろう
吉田春斗



環境保全に目を向けて
和田あやめ

デジタル部門 全作品



安全な水をすべての人に
伊藤さりり



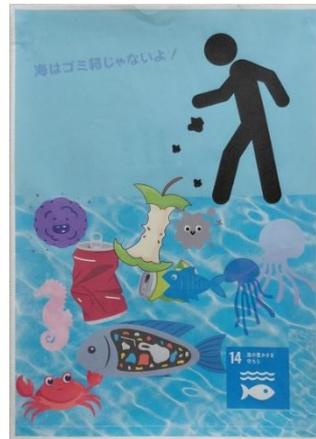
海
伊藤未萌楠



みんなで力をあわせよう!
上田遥真



自然を守るために…
内山煌也



海はゴミ箱じゃないよ
大浦昊空



やめよう、海へのポイ捨て
大島千景



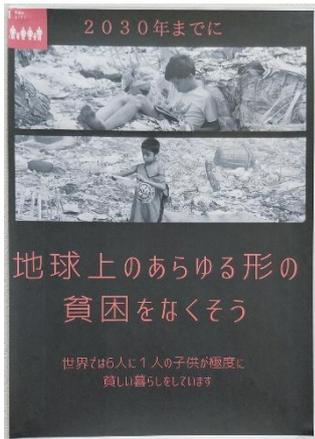
陸をきれいに守ろう
岡本杏奈



SDGs 14 海の豊かさを
みんなで守ろう
小野勇人



エネルギーを大事にしよう
小野垣蹴楽



貧困をなくすために
小野寺心咲



責任を持って行動しよう
合掌弥翔



苦しむ海がそこにある
加藤結斗



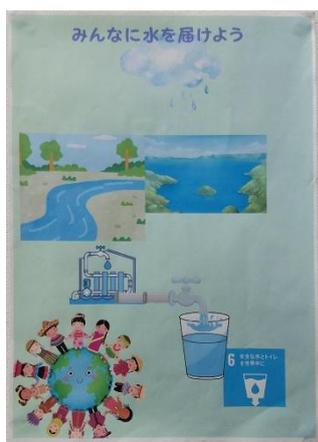
未来の海のために
神原暖



空腹に困っている人をへらしたい
小林剣仁



責任を持って行動しよう
今野颯介



みんなに水を届けよう
佐藤了崇



みんなできれいにしよう
佐藤唯生



みんなの陸の豊かさを守ろう
新保陽介



陸の豊かさ
末永莉乃



作る責任、使う責任
須藤優一



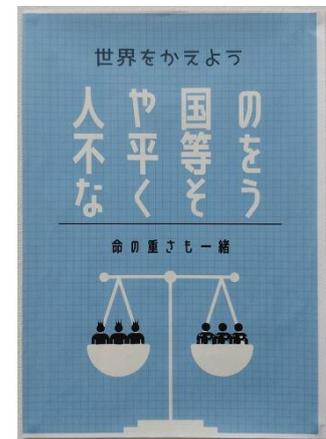
海にゴミを捨てるな！
関口煌大



ディーセント・ワークで
平等な社会へ
関口大志



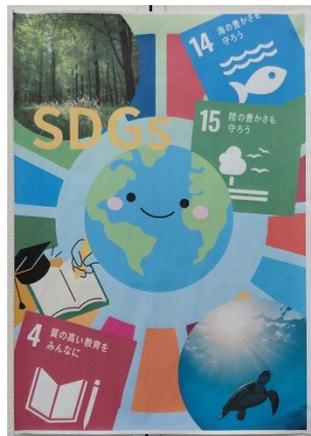
環境問題
高瀬悠陽



命の重さ
高田弁慶



責任を持って行動しよう
高野聖也



質のいい教育や自然環境を守ろう
竹内うみ



「つくる責任、つかう責任」
簡単なことから
多津美優芽



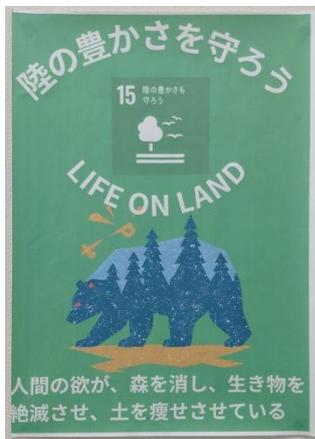
水をみんなが飲めるようにしよう
道見亮太



食品は責任を持ちましょう
橋立紘翔



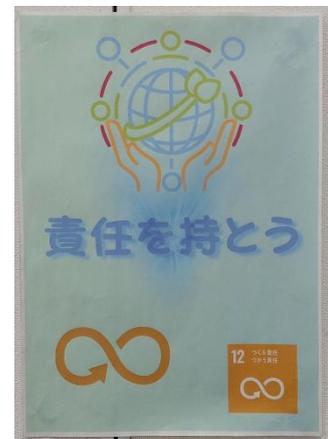
誰もが住み続けられる
まちづくりを
支倉春緋



陸の豊かさを守ろう
畠山旺輝



水とトイレ
藤田大寿



責任を持とう
古川新



SDGs～海の豊かさを守ろう～
村田萌依



平和への道
渡部花音



元気にすごそう
渡邊慶

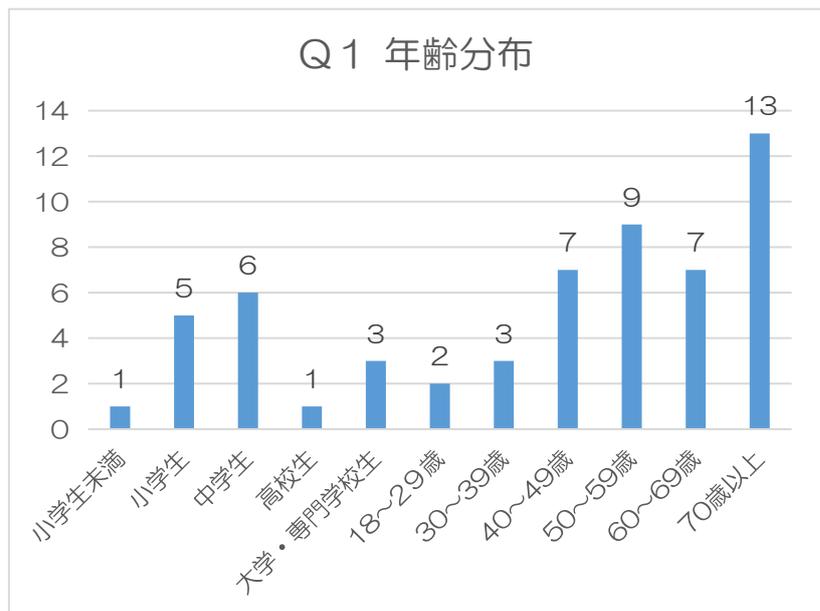
くしろ エコ・フェア2025来場者アンケートの結果と分析

アンケートはエコ・フェア当日にクイズラリーの解答用紙と一緒に渡して会場で回収しました。

回答総数は57です。ちなみに来場者数は約150名だったので、3分の1ちょっとの来場者が回答してくれました。来場者がアンケートに回答する/しないを選ぶ段階で、考え方や性格等のバイアスがかかっている可能性が高いと思われるので、回答結果が来場者全ての考えを反映したものでは無いであろうことは考慮しないとイケない。

1) 来場者年齢分布

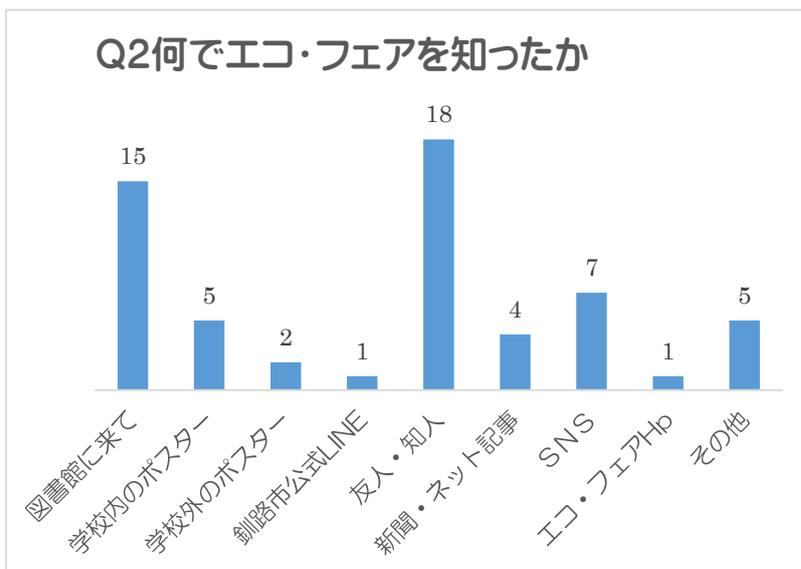
Q1.年齢分布	
小学生未満	1
小学生	5
中学生	6
高校生	1
大学・専門学校生	3
18～29歳	2
30～39歳	3
40～49歳	7
50～59歳	9
60～69歳	7
70歳以上	13



- 去年多かった小学生の来場者が今年は少なかった理由の一つとして、インフルエンザによる学年・学級閉鎖が挙げられます。
- また、同時に小学生の保護者（祖父母も含む）も減ったと思われるので、それが40～69歳の来場者が去年より少し減った理由かもしれない。
- 環境問題の影響を長い間受けることになる若年層にもっと参加してもらえるようにしたい。

2) くしろエコ・フェア 2025 を何で知りましたか？（複数回答可）

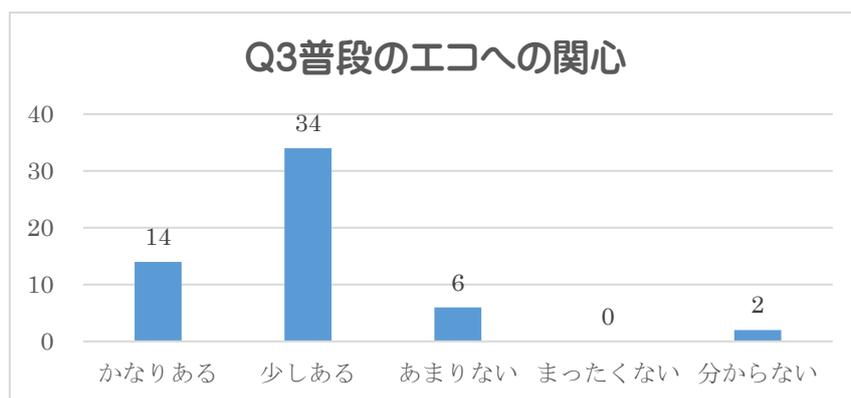
Q2.何で知ったか	
図書館に来て	15
学校内のポスター	5
学校外のポスター	2
釧路市公式LINE	1
友人・知人	18
新聞・ネット記事	4
SNS	7
エコ・フェアHP	1
その他	5
図書館に来て	15



- 去年より『校内のポスター』が減った（16人→5人）。これは、小・中・高すべての生徒の参加が減ったので当然の結果であると思われる。
- 去年に引き続き、『友人・知人』がエコ・フェアを知るきっかけとして一番多くなっている。つまり、少なくとも今のエコ・フェアの規模であれば、所謂『口コミ』が来場者を増やすための重要な要素となっていることが分かる。
- 会場を他に移す話も出ているが、『図書館に来て』エコ・フェアの開催を知って覗きに来た人が多いという事は、図書館で開催する利点を失う恐れにつながるかもしれない。

3) 普段から環境問題・エコロジーに関心ありますか？

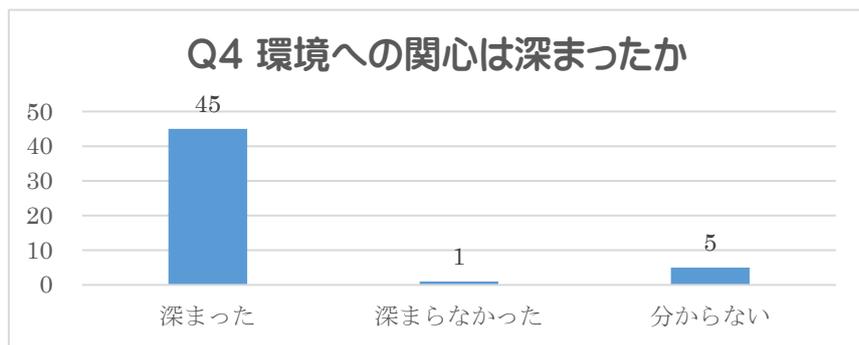
Q3.普段のエコへの関心	
かなりある	14
少しある	34
あまりない	6
まったくない	0
分からない	2



- 普通に考えて、エコに関心のない人の殆どはそもそもエコ・フェアに興味がないだろうからわざわざ来ないだろうし、図書館に来た時にたまたまエコ・フェアが開催されていたとしても、会場に入っただけでこないとと思われるのでこの結果は妥当だと思われる。しかし、あまりエコに関心がない人が足を運びたくなるような催しにするにはどうしたらいいかも考えないといけないだろう。

4) エコ・フェアで、環境への関心は深まりましたか？

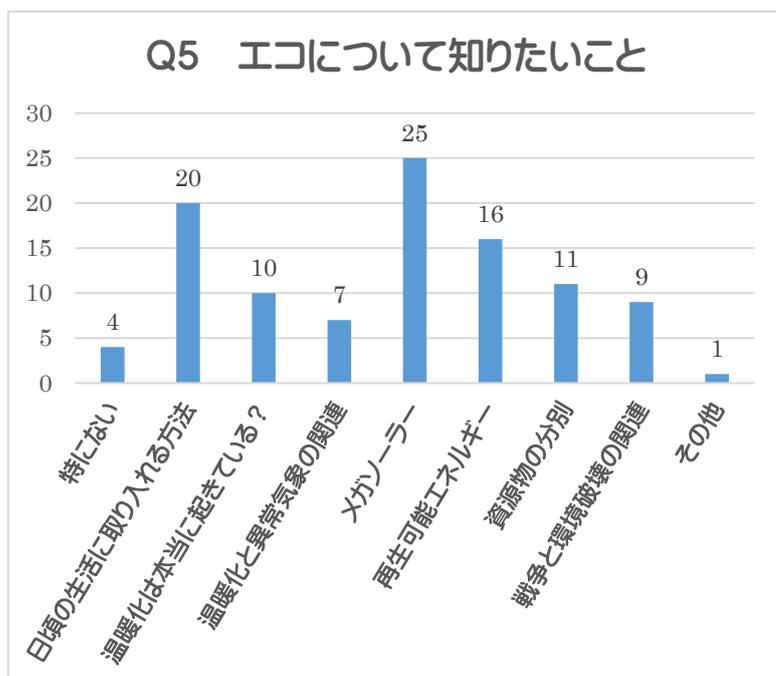
Q4.関心深まったか	
深まった	45
深まらなかった	1
分からない	5



- 殆どの回答者が『関心が深まった』と答えていることから、エコ・フェアは環境への関心をより深める事に役立っていることが分かる

5) エコロジーに関して知りたいことはありますか？（複数回答可）

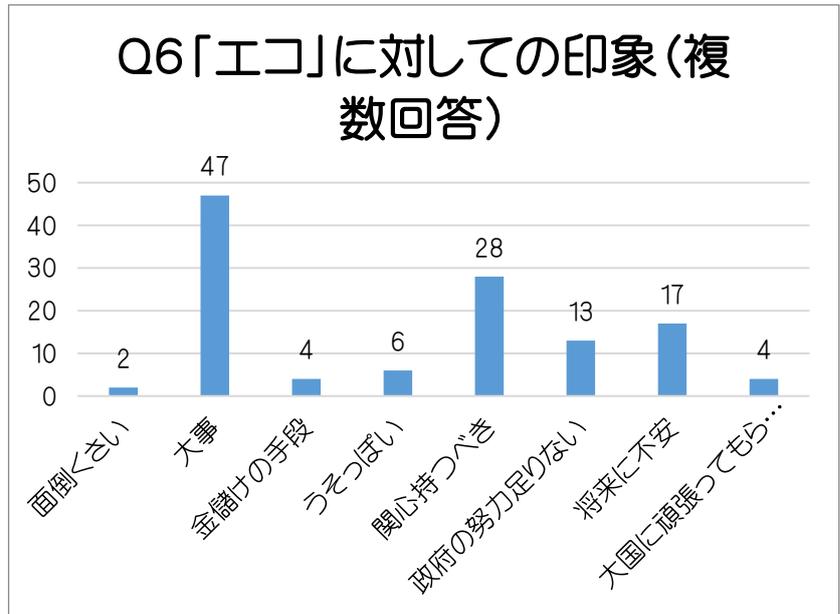
Q5.エコに関して知りたいこと	
特になし	4
日頃の生活に取り入れる方法	20
温暖化は本当に起きている？	10
温暖化と異常気象の関連	7
メガソーラー	25
再生可能エネルギー	16
資源物の分別	11
戦争と環境破壊の関連	9
その他	1



- （アンケートの設問項目が昨年の「太陽光パネル」から「メガソーラー」に代わっているので一概には言えないが）昨年は「日常の生活に取り入れる方法」の約半分だった「太陽光パネル」を選んだ人数が、今年は一番多くなったのは、ちょうど釧路湿原に隣接する土地でのメガソーラー建設の問題が話題になっていることが影響しているのだと思う。
- 2番目に「日常の生活に取り入れる方法」選ばれていることから、『環境問題に対して自分でも何かをしたい』という人が一定数（回答総数の約3分の1）いることがうかがわれる（ちなみに昨年は半分以上の人が選んでいた）。

6) 『エコ』に対してどのような印象を持っていますか？（複数回答可）

Q6. エコに対する印象	
面倒くさい	2
大事	10
金儲けの手段	4
うそっぽい	6
関心持つべき	28
政府の努力足りない	13
将来に不安	17
日本がいくら頑張っても米中などの大国に頑張ってもらわないと意味がない	4

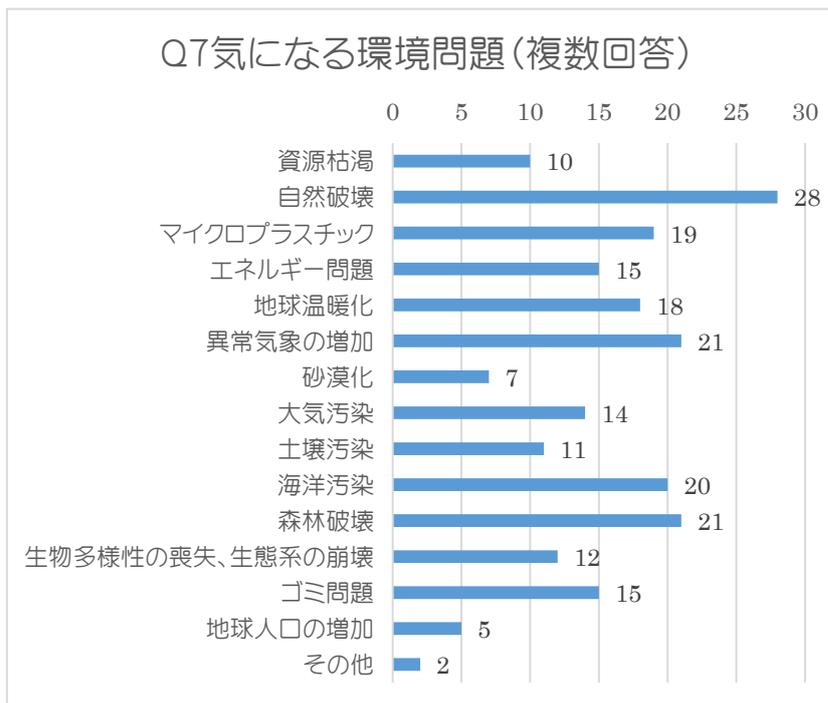


- 去年と1位、2位、3位の順位は変わらず、その割合もほぼ同じ結果になっている。
- 「金儲けの手段」「うそっぽい」といったネガティブな印象を選んだ人数が若干減った以外は、去年とほぼ同じ傾向となっている。
- 昨年は、年齢が上がるほどに『自分や地球の将来に不安がある割合』も上がる傾向がみられていたのが、今年の結果にはその傾向は見られない。これは、この一年で若年層が不安に思う要素が増えたのか、たまたま今年と昨年の来場者の傾向がそうだったのかはサンプル数も少ないので分からない。
- 去年に引き続き「関心を持つべき」が2位に選ばれているということは、『関心をもっていない人』が多いと感じている人が多いことの表れかもしれない。

	% (2025)	% (2024)
小中高生+不安	25.0%	12.5%
18~49+不安	33.3%	25.0%
50以上+不安	31.0%	44.4%

7) 気になる環境問題（複数回答）

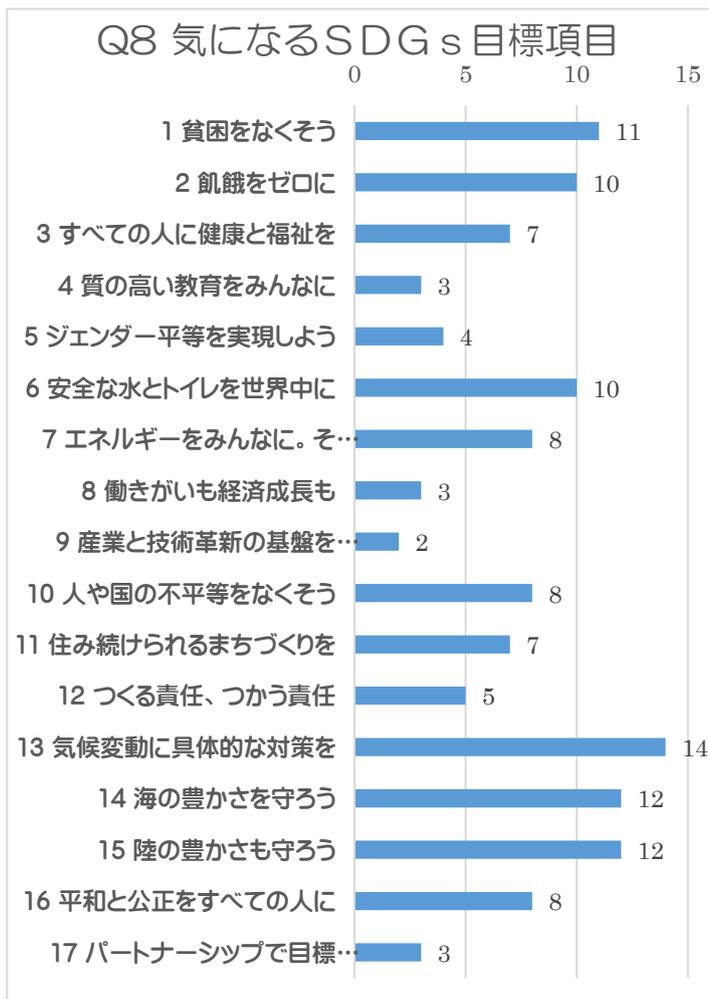
Q7. 気になる環境問題	
資源枯渇	10
自然破壊	28
マイクロプラスチック	19
エネルギー問題	15
地球温暖化	18
異常気象の増加	21
砂漠化	7
大気汚染	14
土壌汚染	11
海洋汚染	20
森林破壊	21
生物多様性の喪失、生態系の崩壊	12
ゴミ問題	15
地球人口の増加	5
その他	2



- 地球温暖化や資源枯渇といった地球規模の問題より、自然破壊や異常気象の増加、海洋汚染や森林破壊などのより身近な問題の方が気になっている傾向があるように思われる。
- 去年2位だった「自然破壊」が1位になったのは、メガソーラー問題で多くの市民の『自然環境保全』の意識が（一時的の可能性もあるが）高まった結果かもしれない。
- 公害に関しては、海洋汚染が大気汚染や土壌汚染より高い関心を集めている。これは釧路ならでは？
- 釧路にいと体感としてはそれほど感じにくいのが、それでも新聞記事やニュースで猛暑やゲリラ豪雨等の話題を目にする機会はあきらかに多くなっている気がする。「異常気象の増加」の関心が高いのはそのようなメディアの影響が大きいのではないかと（釧路では感じにくいと言っても、最近の釧路の夏は数年前より暑い日が増えているように感じるし、逆に冬は平均的に暖かくなっていると思う）。

8) SDGsの17の目標の中で気になる項目（複数回答可）

Q8.気になるSDGs #	
1 貧困をなくそう	11
2 飢餓をゼロに	10
3 すべての人に健康と福祉を	7
4 質の高い教育をみんなに	3
5 ジェンダー平等を実現しよう	4
6 安全な水とトイレを世界中に	10
7 エネルギーをみんなに。そしてクリーンに	8
8 働きがいも経済成長も	3
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	2
10 人や国の不平等をなくそう	8
11 住み続けられるまちづくりを	7
12 つくる責任、つかう責任	5
13 気候変動に具体的な対策を	14
14 海の豊かさを守ろう	12
15 陸の豊かさも守ろう	12
16 平和と公正をすべての人に	8
17 パートナーシップで目標を達成しよう	3



- 目標5の「ジェンダー平等を実現しよう」を選んだ人の割合が、去年はQ8回答者の26.7%だったのが、今年は14.8%まで減った。エコポスター・コンクールの応募作品から見ても目標5を題材にした作品が去年5枚あったのが、今年は1枚しかなかったことから見ても、ジェンダーに関する関心が減っているのかもしれない。
- 『エコ』フェアというタイトルが付されたイベントであることから、一般的に想起されやすい『エコ』のイメージに直接結びつく項目の方が、社会問題としての側面が強い項目よりも『気になる』と回答されやすいことは、ある程度予測可能な結果であるといえる。
- 一方で、貧困や飢餓、福祉、不平等といった項目を『気になる』と選択した回答者が少なくなかったことから、持続可能な成長に対する関心が高まりつつある可能性が示唆される。

SDGs視点で環境学ぶ 30日にくしろエコ・フェア

大切な地球・未来のために今できることをテーマとする「くしろエコ・フェア2025」がSDGsの視点から、30日午前10時から、釧路市中央図書館（北大通10）7階多目的ホールと展示室で開かれる。当日は11団体がブースを設け、環境分野に関わるSDGs（持続可能な開発目標）がテーマの活動を紹介するパネル展示やエコクイズラリーなど、環境を楽しくみながら学ぶ場を提供する。



来場を呼び掛ける田丸実行委員長（中央）らスタッフ

大会が共催。地域に住む一人一人が「暮らしと環境」について考え、体験するイベントとして2007年から行われている。当日は、釧路野外教育研究会やバスから釧路の街を考える会、NPO法人トラスサルン釧路など参加団体によるパネル展、市環境保全課によるゼロカーボンなどの環境保全に関する展示を行う。また、温原クラフト作家の辻野正さんのペーパークラフト展とクラフト工作の体験コーナーも開設。エコクイズラリーでは各ブースを回って環境に関わるクイズに挑戦する。

このほか関連企画の「エコボスターコンクール作品展」では、初の試みとして「手書きエコデジタル」の部門で募集。会場には幼稚園から一般

までの全応募作品74点を展示し、入賞者の表彰も行う。田丸実行委員長は「釧路市内のさまざまな市民活動を紹介するのでも多くの人に来場いただきたい」と呼び掛けている。

同フェアは午後4時まで。入場無料。問い合わせは事務局（釧路市民活動センターわっと）0154（22）25522へ。（嶋守善一）

SDGs視点で環境活動紹介 釧路市中央図書館でエコフェア

大切な地球・未来のために今できることをテーマの「くしろエコ・フェア2025」がSDGsの視点から、11月30日、釧路市中央図書館で開かれた。会場には参加した11団体が環境に関する活動内容を展示したほか、クイズラリーやワークショップなども行われ、来場者が楽しみながら身近な環境活動を学んだ。会場では、釧路野外教育研究会やバスから釧路の街を考える会、NPO法人トラスサルン釧路などがパネル展でそれぞれ

の環境保全活動をアピール。市環境保全課もゼロカーボンアクションや二酸化炭素排出を減らす環境に優しい暮らしの実現を目指す「デコ活」の展示を行った。また、環境保護団体の海ねこみなど会が不要になった着物の裏地を使った「シルクたわし作り」、釧路花くらぶによる「リース作り」などのワークショップが展開され、日本自動車連盟（JAF）のエコカード発行人気を集めていた。



釧路野外教育研究会のブースで活動を紹介する田丸実行委員長（中央）

事に開催できてよかった。インフルエンザの流行で表彰式を欠席した子供が多かったのは残念だ（共栄中1年）

- ◇手描き部門 森川由貴（鳥取西中3年）
- ◇デジタル部門 西唯（共栄中1年）

釧路湿原 改めて考えて 実行委が参加呼び掛け

市民がエコについて考
える「くしろエコ・フェ
ア2025」の関連行事
として、「釧路湿原野生
生物保護センターバック
ヤードツアー&トラス
サルン釧路保護地観察

会」（同フェア実行委主
催）が10月19日午後2時
〜4時30分に開かれる。
同実行委では参加者を募
集している。

釧路湿原野生生物保護
センターバックヤードツ
アー（午後2時〜同3時）
は、猛禽類医学研究所の
獣医師や研究員が施設や
活動の解説をしながらバ
ックヤードを案内する。

引き続き、トラストサ
ルン釧路保護地観察会
（午後3時10分〜同4時
30分）では、黒澤信道理

事長の案内で釧路湿原野
生生物保護センター付近
にある同法人保有の保護
地を巡る。

対象は小学生以上（小
学生は保護者同伴）で定
員15人（先着順）。参加
費は大人1500円、高
校生以下1000円（資
料代や保険料など）。申
し込みは添付のQRコー
ドから。実行委では「釧
路湿原について改めて考
えるきっかけにしてい
たい」と参加を呼び掛
けている。

問い合わせは「kushir
oecofair@g
mail.com」
（嶋守善一）



参加を呼び掛ける実行委のメンバー

報告集への掲載にあつては「株式会社釧路新聞社」様の許諾を得ています



くしろエコ・フェア2025 ご協賛企業様・団体様

拓北地下開発株式会社

敬称略・順不同

ネイチャーテック釧路株式会社

沢田建設株式会社

環境コンサルタント株式会社

釧路信用金庫釧路支店

大地みらい信用金庫釧路支店

特定非営利活動法人くしろ・わっと

株式会社釧路厚生社

コープさっぽろ釧路地区本部

富士塗研興業有限会社

釧路工業高等専門学校

釧路地方中古自動車販売事業協同組合

株式会社釧路製作所

学校法人ほっかいどう学院くしろせんもんがっこう

学校法人緑ヶ岡学園釧路短期大学

株式会社田中組道東支店

国立大学法人北海道教育大学釧路校後援会

冒険の杜プロジェクト

釧路信用組合

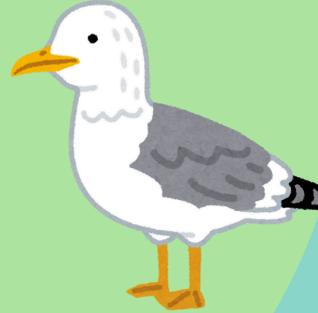
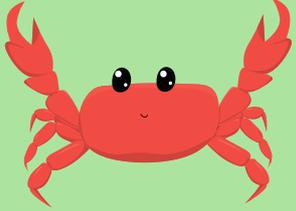
岩倉建設株式会社

一般社団法人日本自動車連盟（JAF）釧路支部

釧路ガス株式会社

本事業は公益財団法人北海道地域活動振興協会の
令和7年度ボランティア活動支援事業助成を受けています。

ご協賛ありがとうございました



くしろエコ・フェア2025 ご協賛企業・団体一覧



ありがとうございました

順不同・敬称略



JAF

一般社団法人 日本自動車連盟

釧路支部
〒084-0906 釧路市鳥取大通8丁目2-11
TEL.0154-51-2167

Ju 釧路 信頼と安心の加盟店へ

釧路地方中古自動車販売協会 釧路地方中古自動車販売事業協同組合

会長・理事長 高橋 成人
釧路市新野7線147番地4 ☎(代)57-9111

文部科学大臣指定・厚生労働大臣指定
公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会公認
障がい者スポーツ指導者(初級)資格取得認定校

学校法人 ほっかいどう学院

くしろせんもん学校

Kushiro special school

こども環境科・介護環境科

〒084-0910 釧路市昭和中央2丁目7番3号
TEL : 0154-51-3195 FAX : 0154-53-3746




ネイチャーテック釧路株式会社

代表取締役 東 陽 一
youichi azuma

〒084-0913
釧路市星が浦南6丁目6番13号
TEL0154-57-7766・FAX0154-57-7768
携帯 090-8273-4141
Email:natec@biscuit.ocn.ne.jp

(再生紙使用)

特定非営利活動法人 くしろ・わっと

釧路市民活動センター指定管理者



© iracchi PANDA official



いまが大切、十年先の将来、百年先の未来。



環境コンサルタント株式会社 KANKYO CONSULTANT

Environmental Preservation

代表取締役 濱口 憲太

本社事業部
〒088-0606 釧路郡釧路町中央6丁目15番地2
TEL 0154-40-2331 FAX 0154-40-3754
https://kankyocon.co.jp




本店 / 釧路市錦町5丁目3番地

▶自然環境調査 ▶社会環境調査 ▶土木設計 ▶測量・補償調査 ▶地質・土質調査 ▶環境アセスメント

冒険の杜プロジェクト

子どもたちに自然体験を提供します。親子に自然体験を提供します。大人やお年寄りにゆっくりとのおんびりした空間を提供します。以上のことをテーマに、今後も活動していきます。



代表 金橋 康裕 (かひら やすゆき)
事務局 〒085-0004
釧路市新富町13番21号
電話 090-7650-0950 (代表)
Mail ykanahashi@kbh.biglobe.ne.jp
事務局長 山田 栄子 (やまだ えいこ)



リサイクル
循環型社会を応援します!!



株式会社 **釧路厚生社**

代表取締役会長 中山 勝範
代表取締役社長 福田 雅嘉

〒088-0605

釧路郡釧路町別保原野南21線46番地20

TEL 0154-40-2983 FAX 0154-40-2289

URL <http://www.k-kouseisya.co.jp>



まち
この地域とこれからも

100 釧路信用金庫

ANNIVERSARY

理事長 森村 好幸

〒085-0015 北海道釧路市北大通8丁目2番地
TEL.0154-23-0111



釧路信用金庫
ホームページ

いつまでも 地域とともに



しんくみ

釧路信用組合

理事長 忠村 浩志

釧路市北大通9丁目2番地 TEL(代)22-3161
<http://www.kushiro.shinkumi.jp>

挑戦する企業

K 釧路製作所

代表取締役社長 羽笏 洋

〒085-0003

北海道釧路市川北町9番19号

0154-22-7135(代) FAX0154-22-9680



地域の皆さまとともに、豊かな未来を創造します。

大地みらい信用金庫

理事長 伊藤 哲也
釧路支店長 田坂 渉

<https://www.daichimirai.co.jp>



土質・地質総合コンサルタント

拓北地下開発株式会社

代表取締役 田中 卓

〒084-0913 釧路市星が浦南1丁目3番7号

TEL(0154)51-4711(代) FAX(0154)55-2200



沢田建設株式会社

〒085-0058 釧路市愛国東1丁目1番16号

電話 (0154) 36-1965番(代表)

FAX (0154) 36-1366番



富士塗研興業 Fujitokenkogyo Co.,Ltd
有限会社

代表取締役 森 圭一郎
MORI KEICHIRO

〒084-0924

釧路市鶴野58番地1700 TEL:0154-51-0521 FAX:0154-51-1057
E-mail:fujitokenkogyo@purple.plala.or.jp 携帯電話:080-3291-6225

コープさっぽろ 釧路地区本部

① 岩倉建設株式会社

代表取締役社長 鈴木 泰 至

本 社 札幌市中央区南1条西7丁目16番2

Tel (011) 281-6000

釧路営業所 釧路市鳥取南7丁目1番10号

Tel (0154) 51-3673



日本最東端から、“光”を発信。

北海道教育大学釧路校

〒085-8580 釧路市城山1丁目15番55号
<https://www.hokkyodai.ac.jp/kus>

地域に密着した総合教育

学校法人 緑ヶ岡学園

- 釧路短期大学
- 認定こども園
- 釧路短期大学附属幼稚園
- 武修館高等学校

釧路市緑ヶ岡1丁目10番42号 Tel 0154(41)0131(代)
<http://www.midorigaoka.ac.jp>

支店 執行役員
長

今野

肇

支店 085-0008
釧路市入江町五番十六号
電話 〇五四二二七二七九番
FAX 〇五四二二七二七九番

株式会社 田中組 道東支店

未来を待つな、

未来を創ろう

公式マスコット
キャラクター
クシローネ♪



詳細は釧路高専で検索！！



独立行政法人 国立高等専門学校機構

釧路市大楽毛西2丁目32番1号

釧路工業高等専門学校

TEL: 0154-57-8041
FAX: 0154-57-5360



ぱつとかんたん！ ほとほと便利に♪
釧路ガスのでんき

釧路ガスのでんき で検索



エレっきい

GAS 釧路ガス

Tel0154-65-1043(直通) お客さまサポート課 料金係
Tel0154-22-8101(代表) 釧路ガス株式会社

くしろエコ・フェア2025 事務局業務の流れ

2025年	4月	12日	くしろエコ・フェア2025事務局会議①
	6月	7日	くしろエコ・フェア2025事務局会議②
教頭会資料準備			
	6月	25日	教頭会参加（くしろエコ・フェア2025協力依頼）
	7月	6日	くしろエコ・フェア2025事務局会議③
	7月	10日	くしろエコ・フェア2025実行委員会①
	9月	26日	くしろエコ・フェア2025事務局会議④
協賛協力依頼訪問			
	9月	29日	くしろエコ・フェア2025事務局会議⑤
	10月	15日	エコポスターコンクール選考会
	10月	19日	釧路湿原野生生物保護センターバックヤードツアー&トラストサルン釧路保護地観察会
	10月	27日	くしろエコ・フェア2025事務局会議⑥
	11月	12日	くしろエコ・フェア2025実行委員会②
	11月	21日	釧路市公式ラインでのエコ・フェア2025広報
	11月	29日	前日会場設営
	11月	30日	くしろエコ・フェア2025開催
○開催場所 釧路市中央図書館 7F多目的ホール・展示室・学習室			
	12月	1日～8日	エコポスター作品のわっとギャラリースペースでの展示
	11月	22日	くしろエコ・フェア2025事務局会議⑦
	12月	22日	くしろエコ・フェア2025事務局会議⑧
2026年	1月	29日	くしろエコ・フェア2025事務局会議⑨
	2月	末日	くしろエコ・フェア2025報告集完成（予定）
	3月	5日	くしろエコ・フェア2025実行委員会③（予定）

『くしろエコ・フェア』 実行委員会規約

1 名称

この会は『くしろエコ・フェア実行委員会』と称し、事務所を釧路市民活動センターわっと内に置く。

2 目的

この会は環境に関心のある様々な団体・個人が集い、くらしと環境について考える場を共有し、次世代によりよい環境を伝えることを目的とする。

3 構成

この会に代表者1名、副代表2名、事務局長、会計、監事2名を置く。

代表は実行委員会の運営を統括し、副代表は代表を補佐する。

事務局長は運営全般及び実行委員会の活動に関する事務を行う。

会計は実行委員会の活動に伴って発生する会計についての事務を行う。

監事は会計及び業務監査を行う。

4 経費

実行委員会の活動に要する経費は、参加団体・個人が負担する。

5 その他

この規約に定めるものの他、必要事項は、実行委員会に於いて決定する。

<付則>

この規約は2007年3月28日より施行する。

この規約は2011年8月8日より施行する。

この規約は2012年4月7日より施行する。

あ と が き

会場が釧路市中央図書館に移り 4 回目となる「くしろエコ・フェア 2025」の開催。開催直前に釧路管内でのインフルエンザの流行があり、参加者・受賞者の来訪が懸念されましたが、ふたを開けるとおよそ150 名もの方々にご来場いただき、会場も大いに盛り上がりました。

くしろエコ・フェア 2025 は、昨年に引き続き「SDGs の視点から」と題して開催しました。出展団体は 11 団体、また今回のエコ・フェアは体験型ブースが多く、体感的にも、終了後の出展団体からの声も「滞在時間が長かった」印象です。

フェア当日には初の試みとしてグループ学習室を使用し釧路市環境保全課さんの「デコ活啓発パネル展」を開催しました。例年好評をいただいている「エコ・クイズラリー」を今回も実施し、参加者の方々は、ほぼ全ての出展をご覧いただけただようです。

例年実施している「エコ・ポスター」コンクールでは、昨年同様テーマを SDGs 全般に広げて募集しました。また従来の手描き作品の部門に加えパソコンやスマホ、タブレットを活用したデジタル部門も創設しました。部門が増えたことにより昨年の応募数(36 作品)から大幅に増え(74 作品)、実行委員会においても嬉しい驚きの声が上がりました。・・・ポスターコンクールに応募いただいた皆さん、そして、子どもたちの応募を支えていただいた市内幼稚園、小中学校関係者の皆様、ご家族の皆様に感謝いたします。

またくしろエコ・フェアとしては久しぶりのフィールドワークとしまして10月19日に「釧路湿原野生生物保護センターバックヤードツアー&トラストサルン釧路保護地観察会」を開催しました。当日は釧路湿原野生生物保護センターに集合し猛禽類医学研究所のスタッフさんによるバックヤードを案内していただき、その後 NPO 法人トラストサルン釧路の黒澤理事長に野生生物保護センター近隣のトラスト保護地（ヤチボウズ保護地）を案内していただきました。

昨今、各団体の高齢化・少人数化、若い世代の社会活動への参加の低迷などの課題もありますが、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の目標(SDGs)達成に向けて、「くしろエコ・フェア」の活動も、微力ながらその一助となればと考えます。今後も活動の趣旨をご理解いただき、より活動が広がり、充実するよう声かけ、ご協力いただければ幸いです。

最後になりますが、快く出展に尽力いただいた出展団体関係者の皆さん、共催としてご協力いただきました釧路市教育委員会様、開催会場の設営等にご協力いただいた釧路市中央図書館職員の皆様に感謝申し上げます。さらに、協賛企業・団体の皆様方からの協賛金、令和 7 年度ボランティア活動支援助成、イオン釧路昭和店様の「イオン幸せの黄色いレシート」(毎月 11 日)による寄付金などのご協力を得まして、開催を成功させることができましたことを、重ねてお礼申し上げます。

くしろエコ・フェア 2025 実行委員会 事務局長 上野 岳